池田市埋蔵文化財発掘調査概報

2008年度

2009年3月

池田市教育委員会

序　　文

池田市は大阪府の北西部に位置し、五月山の緑、猪名川の水の流れに囲まれています。このような自然の豊かな環境の中、人々が先史の時代から営み始めています。

近年はこの地も、陸・空の交通の要衝として、また、大阪のベットタウンとして開発が進み、大きく発展した。

しかしながら、このような開発・発展とは裏腹に、我々の祖先が伝え残してきた文化遺産や自然が破壊され、昔の面影がしのぶことができないほど様がわりしてしまったことも事実です。祖先から受け継がれてきた文化遺産を現代生活に反映しつつ、また、後世に伝えて行くことが我々の義務と考えております。

この報告書は、上述した状況の中、危機に面している埋蔵文化財について、国の補助を受けて実施した発掘調査の概要報告であります。本書が文化財の理解に通じれば幸いと存じます。

なお、調査の実施にあたっては多くの御指示、御助言をいただいた諸先生並びに関係機関をはじめ、土地所有者、近隣住民の方々には文化財保護に対して、格別の御理解と御協力をいただき、心より感謝と敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成21年3月

池田市教育委員会
教育長　村　田　　陽

例　　言

1．本書は、池田市教育委員会が平成20年度国庫補助事業（総額1,200,000円、国庫50％）として実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。

2．調査は、池田市教育委員会教育部社会教育課が実施し、中西正和が現地を担当した。

3．本書の執筆・編集は中西が行なった。また、本書の製図、遺物実測にあたっては野村大作・辻武司の協力を得た。

4．池田城跡の出土遺物整理にあたって、藤本史子氏のご教示を得た。ここに感謝の意を表する。

5．本書で使用する土層の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所　色票監修）による。

6．調査の進行にあたっては、施主並びに近隣住民の方々にご理解、ご協力をいただいたことに対し、深く感謝の意を表する次第であります。

目　　次

Ⅰ　歴史的環境・・・

挿　図　目　次

Ⅰ　歴史的環境
第１図　宮の前遺跡石棒 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
第２図　遺跡分布図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
第３図　神田北遺跡弥生土器出土状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
第４図　娯三堂古墳竪穴式石室 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
第５図　池田城跡第31次調査掘立柱建物跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
Ⅱ　豊島南遺跡第８次調査
第６図　豊島南遺跡掘立柱建物跡２ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
第７図　調査地位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
第８図　トレンチ位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
第９図　トレンチ平・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
第10図　出土遺物実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
第11図　調査地周辺遺構図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
Ⅲ　京中遺跡第１次調査
第12図　調査地位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
第13図　トレンチ位置図・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
Ⅳ　城南３丁目（村重塔）試掘調査
第14図　調査地位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
第15図　大阪府池田市土地宝典（昭和14年） ・・・・・・・・・・・・・・・ 9
第16図　トレンチ位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
第17図　トレンチ断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
Ⅴ　池田城跡
第18図　調査地周辺図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
第19図　池田城跡第57次調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
池田城跡第58次調査
第20図　トレンチ位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第21図　トレンチ断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
池田城跡第59次調査
第22図　トレンチ位置図・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
池田城跡第60次調査
第23図　トレンチ位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第24図　トレンチ断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第25図　出土遺物実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
池田城跡第61次調査
第26図　トレンチ位置図・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
池田城跡第57－２次調査
第27図　トレンチ位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
第28図　トレンチ平・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
第29図　調査地周辺遺構図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
第30図　池田城跡第57次調査堀１出土遺物実測図 ・・・・・・・・・・・・17
Ⅵ　宇保猪名津彦神社古墳第２次調査
第31図　猪名津彦神社内巨石 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
第32図　調査地位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
第33図　トレンチ位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
第34図　トレンチ断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
第35図　出土遺物実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
第36図　古墳復元図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
Ⅶ　宮の前遺跡
第37図　第11次調査竪穴住居跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
第38図　調査地位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
宮の前遺跡第46次調査
第39図　トレンチ位置図・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
宮の前遺跡第47次調査
第40図　トレンチ位置図・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
宮の前遺跡第48次調査
第41図　トレンチ位置図・断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
第42図　出土遺物実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

Ⅰ　歴史的環境

池田市は大阪府の西北部に位置し、東西4.1㎞、南北9.2㎞の南北に細長い市域で、西摂平野の北東部、丹波山地に源を発する猪名川が北摂山地を分断して平野部に出たところにあり、古くから谷口集落として、大阪と丹波、能勢地方の物資集散、文化交流に中心的な役割を果してきた。

池田市の地形は、市域のほぼ中央に五月山が占め、それより北には、北摂山地および余野川によって形成された沖積平野が広がっている。また、五月山より南には、標高50mの緩やかな五月丘丘陵が広がり、その南側には宇保段丘が、更に南側には、猪名川によって形成された広大な沖積平野が広がっている。このような自然環境の中、人々は旧石器時代から生活を営んでいたことが近年の発掘調査で明らかになっている。

旧石器時代

旧石器が出土した遺跡としては、伊居太神社参道遺跡、宮の前遺跡(蛍池北遺跡)、宮の前西遺跡、神田北遺跡が挙げられるが、遺構については未確認である。

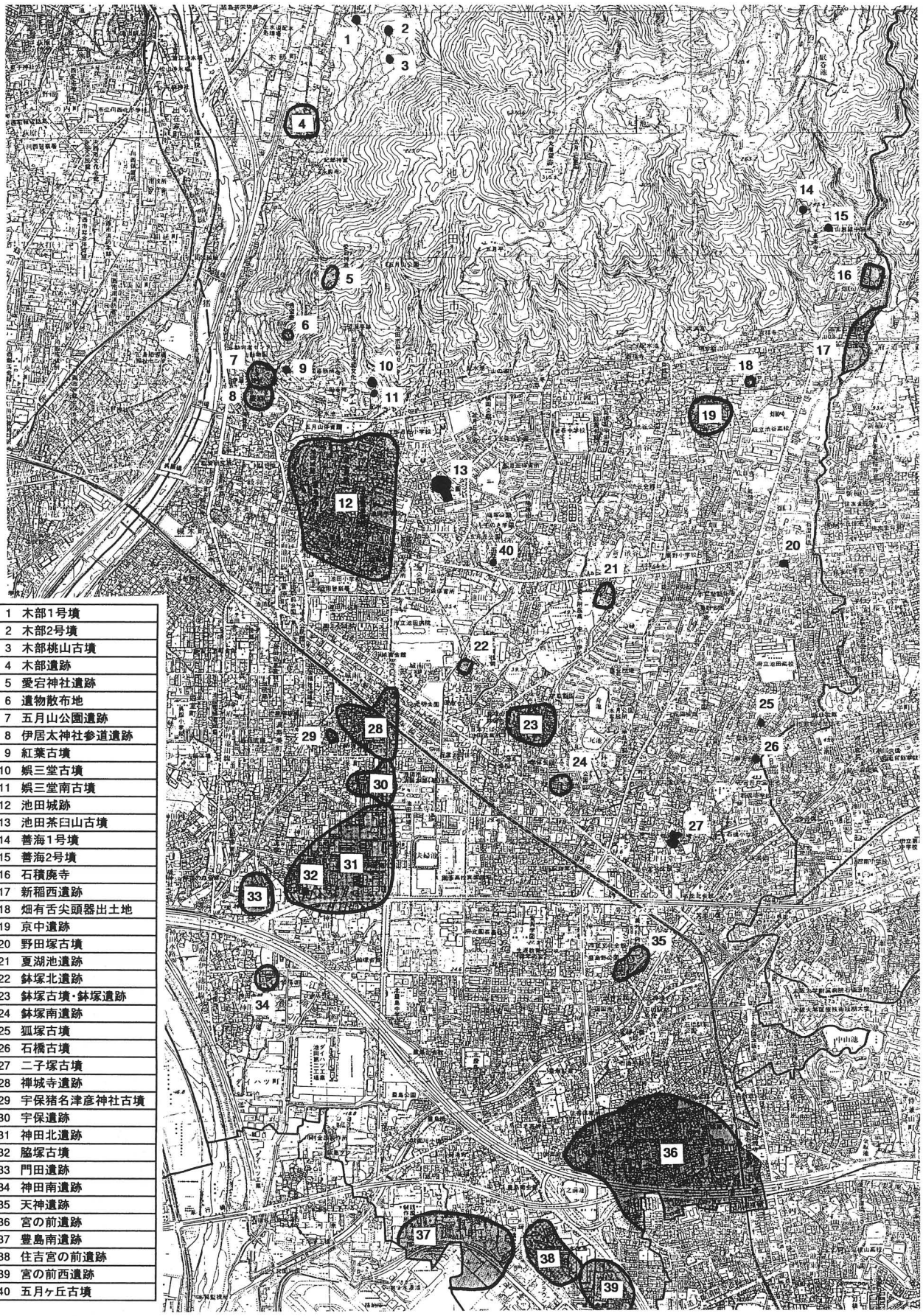
伊居太神社参道遺跡は標高約50mの五月山丘陵西端部に位置し、明治年間から石器が採集され、その中に少量であるがナイフ形石器等の旧石器時代に比定されるものが認められている。宮の前遺跡では、昭和61年度の大阪府教育委員会による発掘調査で国府型ナイフ形石器・平成元・7年度の豊中市教育委員会による蛍池北遺跡発掘調査でナイフ形石器が出土している。また、宮の前遺跡に隣接する宮の前西遺跡からは翼状剥片1点が採取されている。神田北遺跡では、平成9年度からの大阪府教育委員会による都市計画道路池田・神田線拡幅工事に伴うの調査で国府型ナイフ形石器が出土している。

縄文時代

縄文時代に関する遺跡も少ない。市域北部での遺跡は、古江遺跡から石匙、木部遺跡では石鏃が出土している。市内中部の伊居太神社参道遺跡で縄文時代のサヌカイト製の石鏃、京中遺跡でサヌカイト製の石鏃・石匙が採取され、近隣の畑ではサヌカイト製の尖頭器が採集されている。また、近年の発掘調査で、池田城跡下層からサヌカイト製の石鏃や晩期の生駒西麓産突帯文土器が出土し、土坑などの遺構も検出されている。

一方、南部の台地に位置する神田北遺跡では石鏃・石匙、宮の前遺跡では石棒が採取され、また、豊島南遺跡で後期から晩期の土器が出土している。しかし、土器は少量で、遺構は検出されておらず、縄文時代の集落の規模・性格等は明らかではない。

第1図　宮の前遺跡石棒



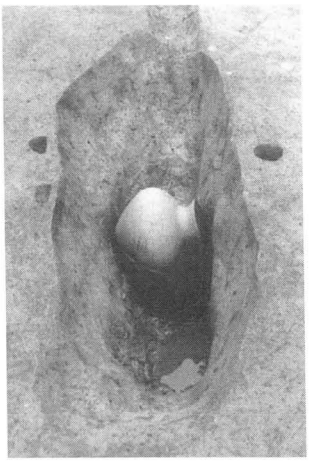
1	木部1号墳
2	木部2号墳
3	木部桃山古墳
4	木部遺跡
5	愛宕神社遺跡
6	遺物散布地
7	五月山公園遺跡
8	伊居太神社参道遺跡
9	紅葉古墳
10	娯三堂古墳
11	娯三堂南古墳
12	池田城跡
13	池田茶臼山古墳
14	善海1号墳
15	善海2号墳
16	石積廃寺
17	新稲西遺跡
18	畑有舌尖頭器出土地
19	京中遺跡
20	野田塚古墳
21	夏湖池遺跡
22	鉢塚北遺跡
23	鉢塚古墳・鉢塚遺跡
24	鉢塚南遺跡
25	狐塚古墳
26	石橋古墳
27	二子塚古墳
28	禅城寺遺跡
29	宇保猪名津彦神社古墳
30	宇保遺跡
31	神田北遺跡
32	脇塚古墳
33	門田遺跡
34	神田南遺跡
35	天神遺跡
36	宮の前遺跡
37	豊島南遺跡
38	住吉宮の前遺跡
39	宮の前西遺跡
40	五月ヶ丘古墳

第2図　遺跡分布図

弥生時代

弥生時代前期の遺跡としては、五月山北麗に位置する木部遺跡があげられる。木部遺跡は工事中に発見された遺跡で、その時に弥生時代前期から後期の土器が出土し、平成15年度の調査においても前期から中期の土器が出土している。

弥生時代中期においては、池田市南部の台地上で遺跡が現れるようになる。宮の前遺跡は昭和43年・44年に中国縦貫自動車道建設にともない、大規模な発掘調査がなされ、方形周溝墓、竪穴住居跡、土壙墓等の遺構が多数検出されている。また、宮の前遺跡から西へ約１㎞に位置する豊島南遺跡では方形周溝墓が検出され、宮の前遺跡との関連が注目される。



第３図　神田北遺跡弥生土器出土状況

後期に入ると、宮の前遺跡、豊島南遺跡は消滅し、かわって、五月丘丘陵で池田城跡下層、京中遺跡、五月山山頂で愛宕神社遺跡が現れる。池田城跡下層では平成３年の調査において、ベッド状遺構を伴う竪穴住居跡が検出されている。また、台地では神田北遺跡においては、竪穴住居跡、土坑が検出されている。弥生時代後期になると小規模の遺跡が増加する。

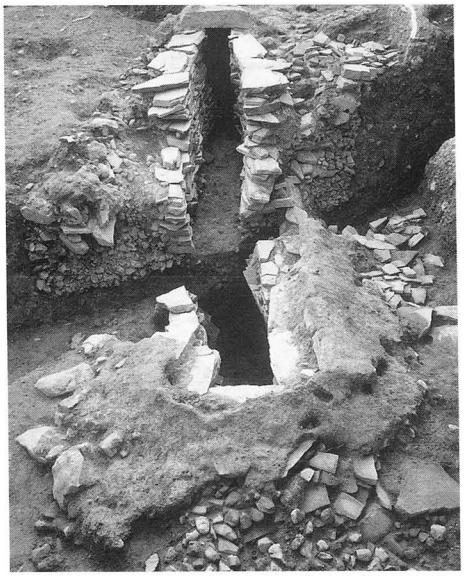
古墳時代

市内に残る古墳時代前期の古墳は、池田茶臼山古墳と娯三堂古墳である。池田茶臼山古墳は五月山より派生する丘陵の鞍部に築造された全長62mの前方後円墳で、竪穴式石室、埴輪円筒棺、葺石、埴輪列が検出されている。一方、娯三堂古墳は池田茶臼山古墳より北西約500m離れた五月山中腹に位置する径27mの円墳で、明治時代に石室内から画文帯神獣鏡などが出土している。平成元年度の調査の結果、同一の墓壙内に竪穴式石室と粘土槨が存在することが確認されている。

古墳時代中期では小規模な低墳丘をもつ古墳が宮の前遺跡、豊島南遺跡で見られるようになる。

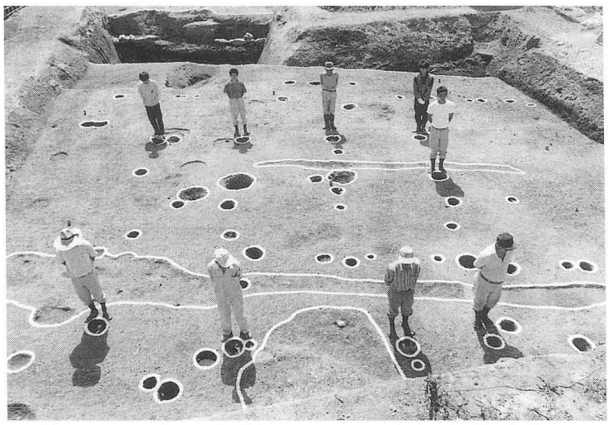
古墳時代後期では古江古墳、善海1・2号墳、木部1・2号墳、木部桃山古墳、須恵質の陶棺を持つ五月ヶ丘古墳のような単独、あるいは2～3基を一単位とする小規模な古墳が現れるが、群集墳は形成されない。古江古墳は平成17年に電波塔工事によって破壊され、その際の事後調査によって、須恵器・鉄刀が出土した。上記の小古墳が築造された一方で、巨大な横穴式石室を有する鉢塚古墳や前方後円墳の二子塚古墳が築造されており、この地域の古墳の中でも、鉢塚古墳と二子塚古墳は異質の存在である。

古墳時代の集落遺跡としては、古江遺跡、木部遺跡等で須恵器や土師器が出土しているが、これらの遺跡では、遺構の詳細は判然としない。豊島南遺跡では古墳時代前期の焼失住居跡が検出されている。中期に入ると、少しではあ



第４図　娯三堂古墳竪穴式石室

るが検出遺構も増す。宮の前遺跡では竪穴住居跡が検出されており、また、豊島南遺跡では竪穴住居跡、溝が検出されている。


第５図　池田城跡第31次調査掘立柱建物跡

歴史時代

集落遺構としては、宮の前遺跡で奈良時代の掘立柱建物跡・溝が検出されおり、豊島南遺跡、神田北遺跡においても奈良時代の掘立柱建物跡等が検出されている。寺院跡としては白鳳・奈良時代の瓦が採取された石積廃寺があるが、未調査のため詳細は明らかではない。中世では神田北遺跡で掘立柱建物跡が検出されており、土師氏によって開発が推進されたとされる呉庭荘と関係するものと考えられる。

室町時代から戦国時代にかけて、国人の池田氏が豊島郡一帯の政治、経済を掌握するようになる。その池田氏の出自の詳細は明らかではないが、応仁の乱ごろから摂津守護細川氏の被官として勢力を拡大させていくが、永禄11年(1568)織田信長の摂津入国により、池田氏は降伏を余儀なくされ、さらに、元家臣荒木村重によって、その地位を奪われることになる。池田氏の居館であった池田城跡は、五月山から南方へ張り出した台地上の南麗に位置する。昭和43・44年に主郭部の一部が調査された際、礎石を伴う建物跡や枯山水様の庭園跡が検出され、また、平成元年度から平成４年度の調査では虎口、建物跡、小規模な石垣、内堀、塼列建物跡等を確認している。池田城の主郭以外でも調査が行われ、平成19年度の調査では15世紀後半の堀を検出している。

参考文献

『原始・古代の池田』　池田市立池田中学校地歴部　1985年
『新修　池田市史』　第１巻　池田市　1997年
『禅城寺・宇保・神田北遺跡』　大阪府教育委員会　2002年

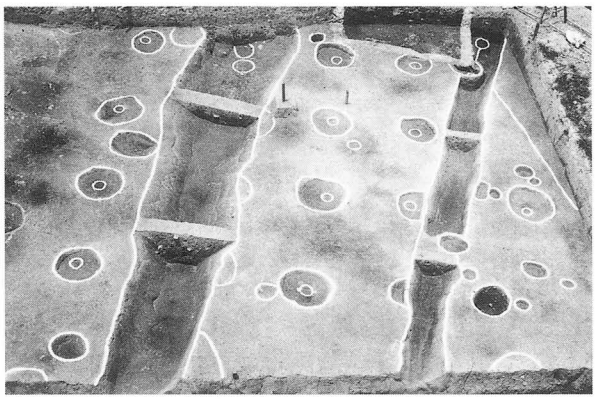
Ⅱ　豊島南遺跡第8次調査

はじめに

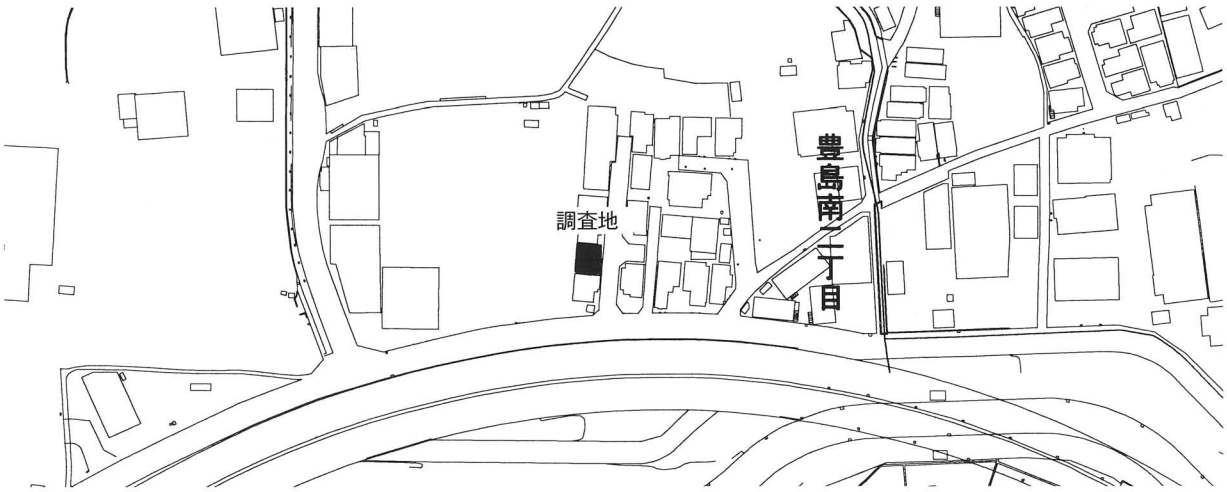
豊島南遺跡は池田市の南側、豊島南２丁目一帯にひろがる縄文時代から中世にいたる複合遺跡である。

当遺跡は昭和55年・56年の池田市教育委員会が実施した分布調査の結果発見され、その後、昭和60年の大阪府教育委員会の調査では弥生時代後期の溝や中世の溝等が確認されている。

昭和62年からの阪神高速道路池田延伸線工事に伴う発掘調査では、縄文時代後期、晩期の土器片、弥生時代中期の方形周溝墓、庄内期の竪穴住居跡、布留期の焼失住居跡、古墳時代中期の方墳、古墳時代後期の竪穴住居跡・溝、奈良時代の掘立柱建物跡、中世の溝が確認されており、徐々にではあるが、遺跡の概要が判明しつつある。



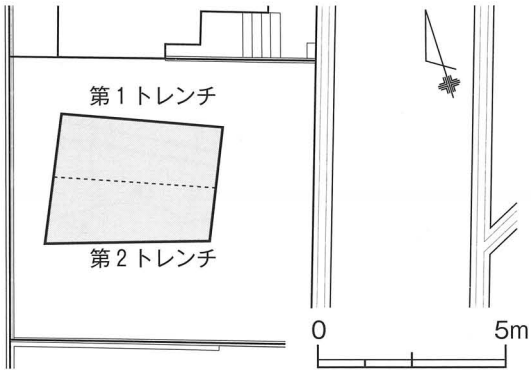
第６図　豊島南遺跡掘立柱建物跡２



第７図　調査地位置図

調査の概要

豊島南２丁目241番６、242番10において、個人住宅建築に先立ち調査を実施した。残土置き場がないため、調査は反転掘りで行い、第１トレンチを調査後、第２トレンチの調査を行った。調査面積は12㎡である。



第８図　トレンチ位置図

基本層序は

第１層　盛土

第２層　にぶい赤褐色粘質土

第３層　灰色砂質土の地山である。

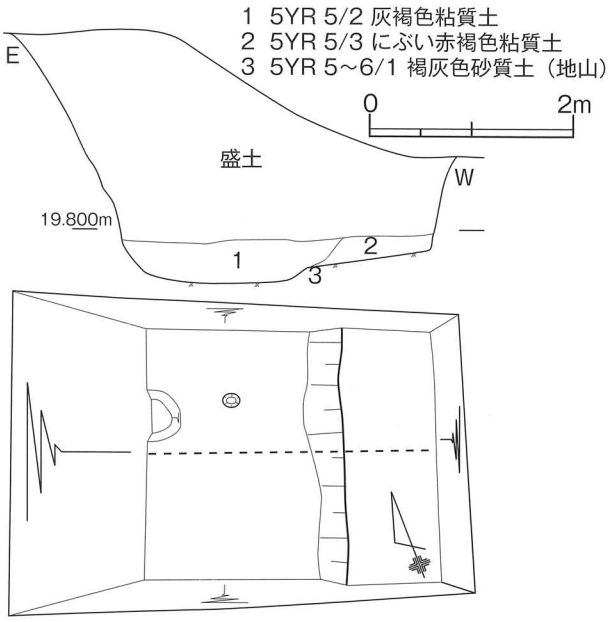
検出遺構

第２層上より、西へ広がる落ち込みと落ち込み内より直径16cmの柱跡を確認した。落ち込みは深さ約20cmを測り、底は水平である。部分的な検出のため、詳細は不明である。

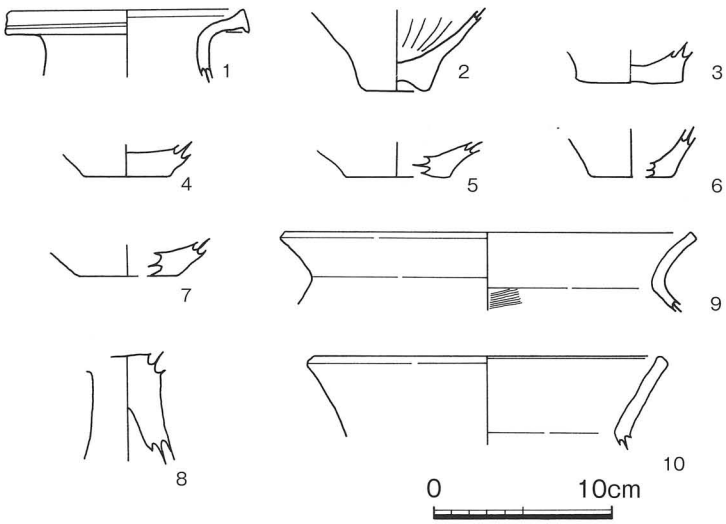
出土遺物

出土遺物は第２層(図10－１から６)、落ち込み（図10－７から10)、柱穴より出土した。１は弥生土器の口縁部、２から７は弥生土器の底部、８は土師器の高杯、９・10は土師器甕の口縁部である。なお、柱穴からは土師質の土器片や第２層からは須恵器片などが出土したが、小片のため実測はできなかった。

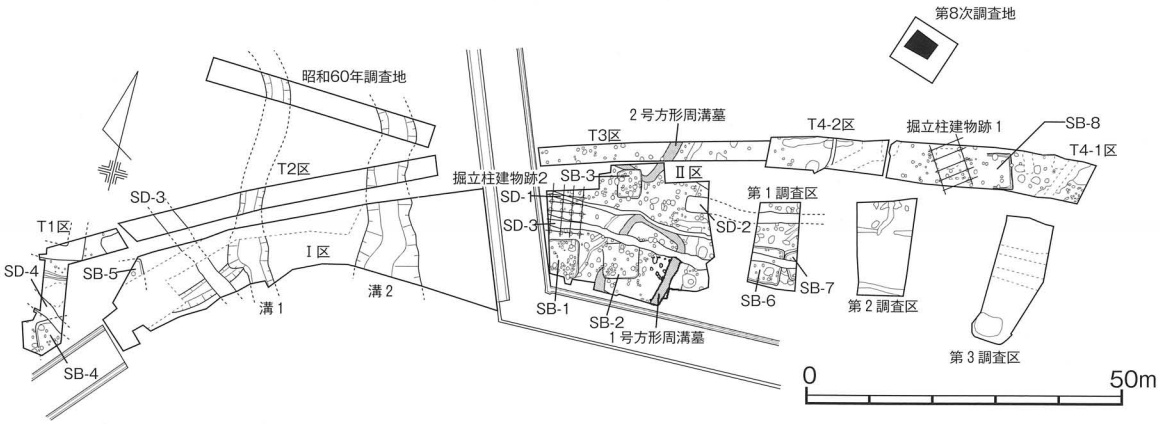
調査の結果、落ち込みを確認した。調査地南の阪神高速道路池田延伸線工事に伴う発掘調査地では、落ち込みの延長は確認できていない。部分的な調査のため、今後の調査成果の積み重ねが必要である。



第９図　トレンチ平・断面図



第10図　出土遺物実測図



第11図　調査地周辺遺構図

Ⅲ　京中遺跡第1次試掘調査

はじめに

京中遺跡は池田市畑３丁目一帯に広がる遺物散布地である。

これまでに、地元の人々により縄文時代の石鏃、弥生時代の石鏃、須恵器などが収集されているが、本格的な発掘調査は行われておらず、遺跡の詳細は不明である。また、住宅建築に伴う試掘調査でも、出土遺物や遺構などは検出されていない。

調査の概要

畑３－793－30において、個人住宅建築に先立ち調査を実施した。今回の住宅建築は、基礎杭が打ち込まれるため、調査は土層観測を主眼に置き実施した。調査面積は３㎡である。

基本層序は

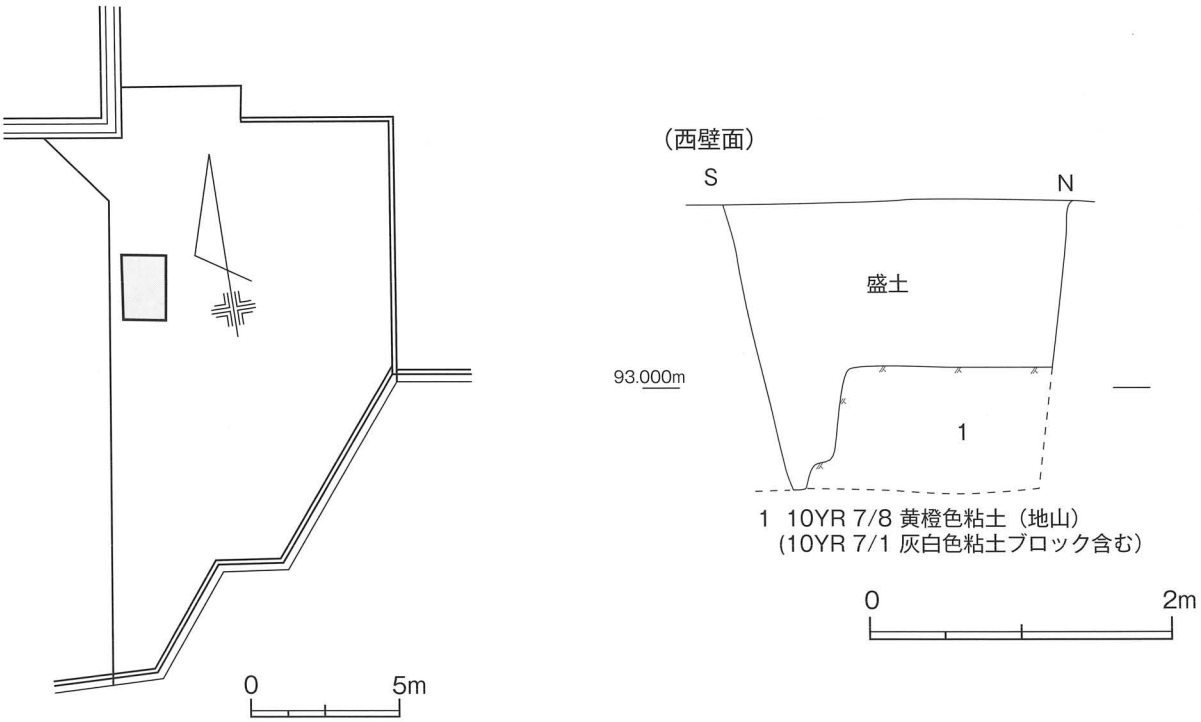
第１層　盛土

第２層　黄褐色粘土の地山である。

第12図　調査地位置図

調査の結果、地山は切土が行われており、遺構・遺物は確認できなかった。

調査地を含め周辺は住宅開発が進んでおり、その際、地山が削平されたと考えられる。



第13図　トレンチ位置図・断面図

Ⅳ　城南3丁目(村重塔)試掘調査

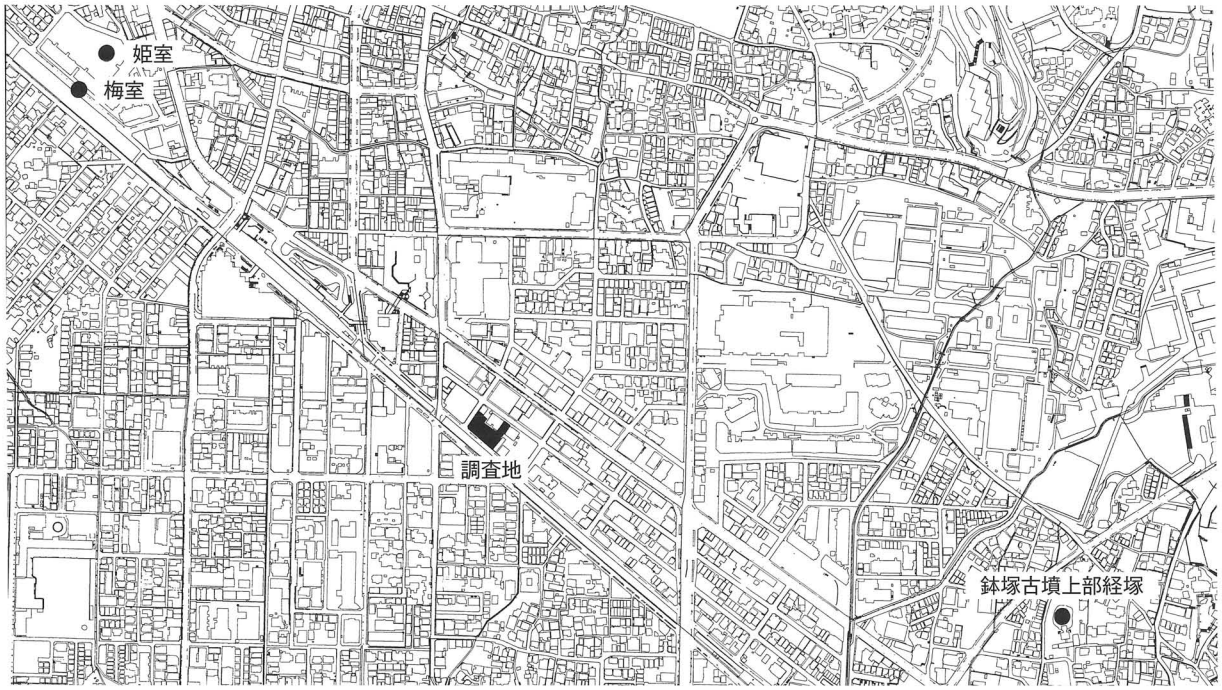
平成20年5月20日付で、共同住宅建設のため、民間建設会社より、池田市環境保全条例第25条の規定による指定事業(指定建造物)協議書の提出があった。建設予定地は「周知の埋蔵文化財包蔵地」の範囲内ではないが、以前より村重塔、村重の塚と呼ばれており、平成20年7月1日、民間建設会社の承諾を得て、平成20年7月7日から7月8日の間、試掘調査を実施した。

村重塔については、寛政10(1798)年までに刊行された『摂津名所図会』に、「荒木摂津守墓　池田呉織野にあり。墓畔に小塚三つあり」とあり、また、絵図である安政4(1857)年写しの池田村絵図では、池田村の南田畑の中に「荒木塔」の文字と塚の絵が描かれている。

その後の資料として、昭和14年刊の『池田町史』に「現在この荒木攝津守の墓と稱するものは三坪餘の小冢なれど圓墳の構造様式より見て戦国時代の墳塋にあらざることは明かである。」とあり、その頃でも塚の状態を保っていたと考えられる。しかし、その後、昭和35年までに完了した城南町区画整備事業にともない、方位向きであった区画割りを阪急宝塚線と国道176号線に対応する区画割りとなり、その際に削平、あるいは盛土によって、塚と判断できない状態になった。その後、この場所に工場が建ち、敷地の一角に祠が建つのみであった。

調査の概要

調査トレンチの設定は、昭和14年刊の『大阪府池田市土地宝典』を参考にした。『大阪府池田市土地宝典』には、村重塔と推定される場所が分筆されており、その場所に第1トレンチを設定した。また、以前に建っていた工場は鉄筋コンクリート造であり、建物範囲内は遺構が失われてい



第14図　調査地位置図

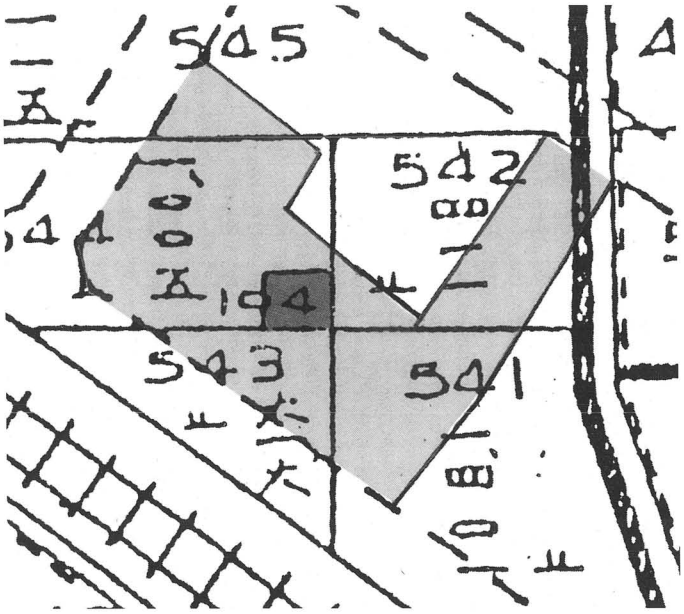
る可能性が高いため、建物範囲外には第２・第３・第４トレンチを設定し調査を行った。

基本層序は
第１層　盛土
第２層　耕土
第３層　灰褐色砂質土
第４層　灰褐色砂礫層の地山である。

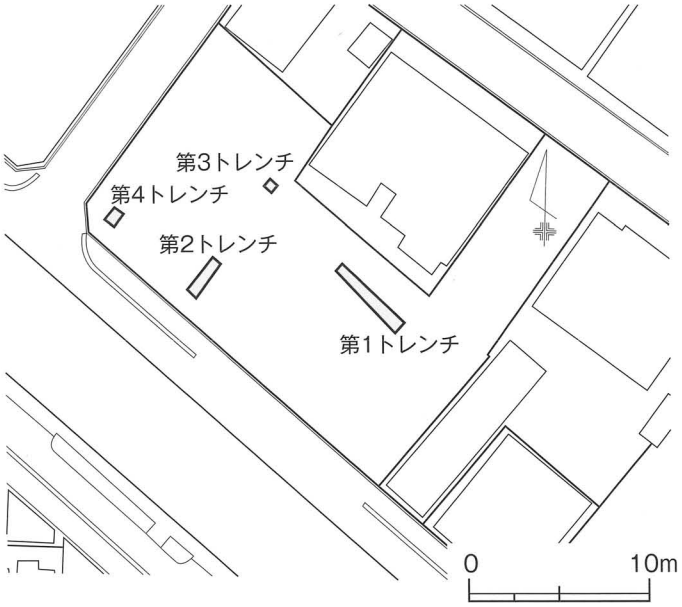
調査地中央に設定した第１トレンチは、以前に建っていた工場により、著しく撹乱されていた。また、建物範囲外の第２・第３・第４トレンチは基本層位が残っていたが、遺物・遺構は確認できなかった。

今回の試掘調査では、塚の存在を示す結果は確認できなかったが、以前の資料と状況から考えると塚は調査地中央部に位置し、以前の建物によって完全に破壊されたと考える。

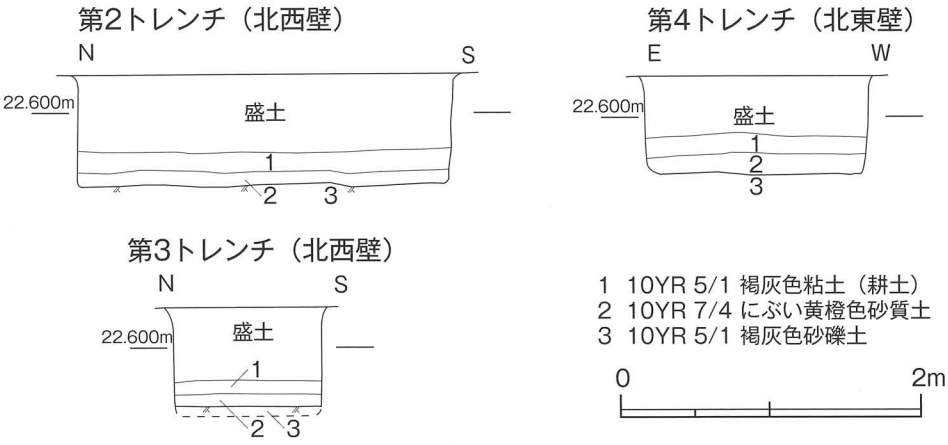
池田市内には、姫室・梅室・鉢塚古墳上部所在経塚の３箇所の経塚が確認されており、村重塔も経塚の可能性があったが、調査では確認できなかった。



第15図　大阪府池田市土地宝典（昭和14年）
〔調査地を薄いスクリーントーンに、分筆場所を濃いスクリーントーンに加筆〕



第16図　トレンチ位置図



第17図　トレンチ断面図

V　池田城跡

はじめに

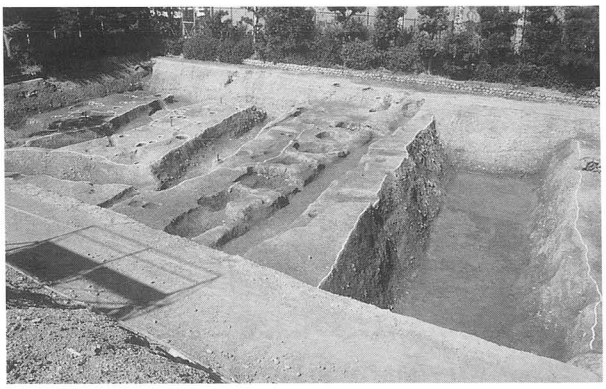
池田城は、池田市城山町・建石町一帯に位置し、戦国期を中心とする国人池田氏の居城で、五月山から張り出した標高50mを測る台地の西縁辺に立地している。その場所からは、眼下に旧池田村を望むことができる。また、丹波山地から大阪湾に流れ込む猪名川、大阪と能勢地方を結ぶ街道を一望することもでき、そのことから、池田城は当時の交通の要衝に選地されていたことが判る。

池田城を居城とした国人池田氏の出自についての詳細は明らかではないが、13世紀後半頃の文献からその名が散見されるようになる。しかし、当時の池田氏の動向は不明な点が多い。15世紀後半頃以降、摂津守護細川氏の被官として、幾度かの落城を経験しながらも、荘園経営や高利貸経営により勢力を伸ばし、摂津の国人の中でも有力な地位を得るようになった。しかし、永禄11年(1568)織田信長による摂津入国に際し、降伏を余儀なくされ、信長の支配下となる。その後、元家臣であった荒木村重によって城を奪われ、そして、池田城は村重の有岡城入城に伴い、政治支配の拠点としての役割を終えることとなった。

池田城全体の構造について不明な点が多く残っていた。昭和43、44年に一部の主郭が発掘調

第18図　調査地位置図

査され、礎石を伴う建物跡、石組の溝、中世城郭では珍しい枯山水の庭園、落城に伴う焼土層等が検出された。また、平成元年～４年に実施された主郭部の発掘調査では、排水のための暗渠を埋設する虎口、礎石や一部瓦を伴う建物、石組の溝、小規模な石垣、主郭内に設けられた内堀、倉庫と考えられる塼列建物等が検出された。一方、大阪府教育委員会や池田市教育委員会による主郭周辺の発掘調査では、主郭部の南方約100mの位置で大手口が存在することや平成19年度の池田城跡第57次調査で15世紀後半の堀が検出されており、少しずつであるが城の全容が解明している。



第19図　池田城跡第57次調査

また、池田城以前の時代についても、昭和60年以降の大阪府教育委員会による調査では縄文時代晩期の土器、弥生時代後期の竪穴住居跡、古墳時代中期の土坑、奈良時代の木棺墓が検出されており、平成３年度の池田城跡第24次調査では、庄内期のベッド状遺構を伴う竪穴住居跡を検出している。

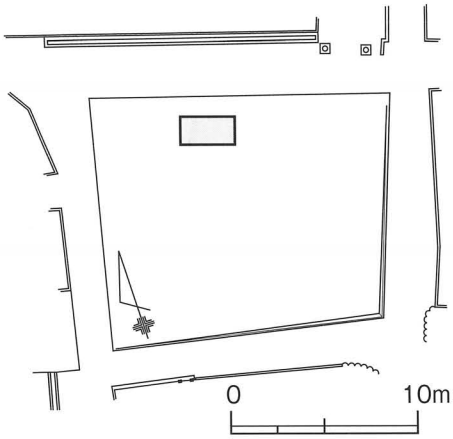
池田城跡第58次調査

調査の概要

池田市建石町1998－３において、共同住宅建築に先立ち試掘調査を実施した。

調査地は池田城跡の東端、池田城外周の堀よりやや内側に位置する。調査地の北側には、南北に伸びる土塁の可能性のある高まり状が位置するため、調査は遺構面の確認、土塁の有無を主眼に置き実施した。

調査面積は５㎡である。



第20図　トレンチ位置図

基本層序は

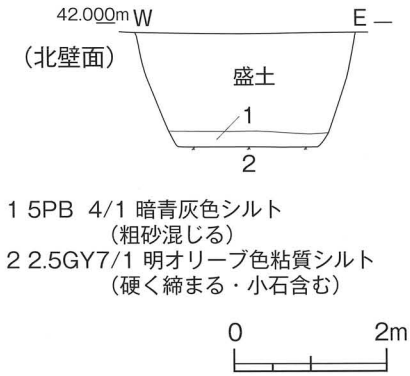
第１層　表土・盛土

第２層　暗紫灰色の砂質シルト

第３層　明オリーブ灰色粘質シルトの地山

である。

地山の上には暗紫灰色の砂質シルトが堆積するが、遺物は確認できなかった。また、第２層上からと第３層の地山上から遺構は確認できなかった。



第21図　トレンチ断面図

池田城跡第59次調査

調査の概要

池田市上池田１丁目3354番において、個人住宅建築に先立ち調査を実施した。

調査地は池田城跡の東側に位置し、南の道は旧能勢街道である。調査地より約30m西の第32次調査では、弥生時代中期前半の土器が出土している。

残土置き場がないため、調査は反転掘りで行い、第１トレンチから第４トレンチまで順次行った。

調査面積は30㎡である。

第１トレンチの基本層序は

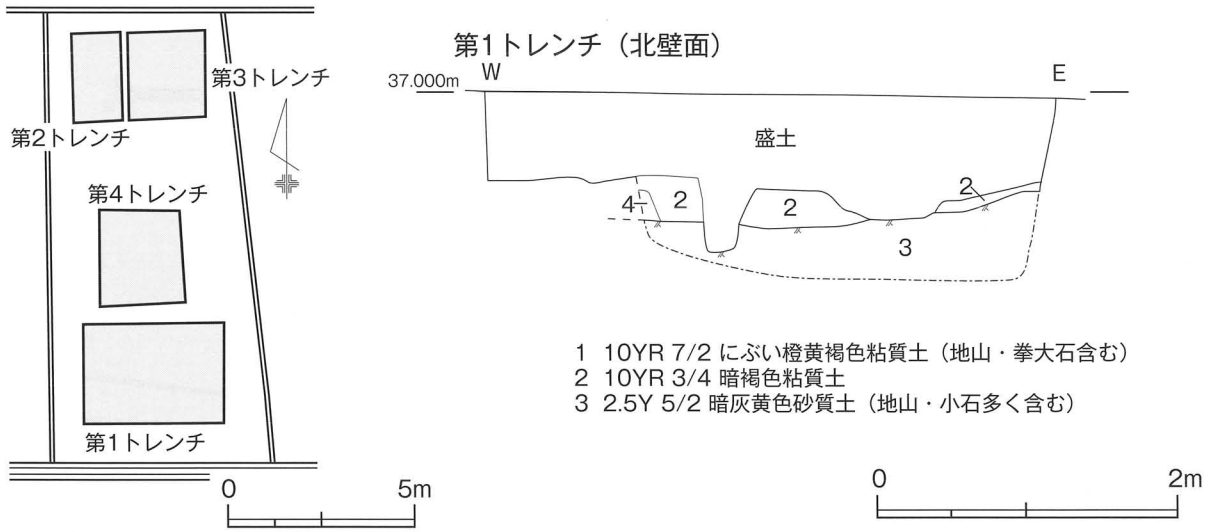
第１層　表土・盛土

第２層　暗褐色の粘質土

第３層　暗灰黄色の砂質土の地山

である。

第２・第３・第４トレンチは、後世の削平のため、表土・盛土の下にすぐ地山があらわれる。遺構・出土遺物は確認できなかった。



第22図　トレンチ位置図・断面図

池田城跡第60次調査

調査の概要

池田市建石町1936－２において、共同住宅建築に先立ち試掘調査を実施した。

調査地北側の池田城跡第24次調査では庄内期のベッド状遺構を伴う竪穴住居跡、調査地西側の池田城跡第14次調査では堀等、調査地南側の池田城跡第31次調査では堀・掘立柱建物跡等を検出している。

調査は遺構面の深さを確認することを主眼に置き実施した。

調査面積は30㎡である。

基本層序

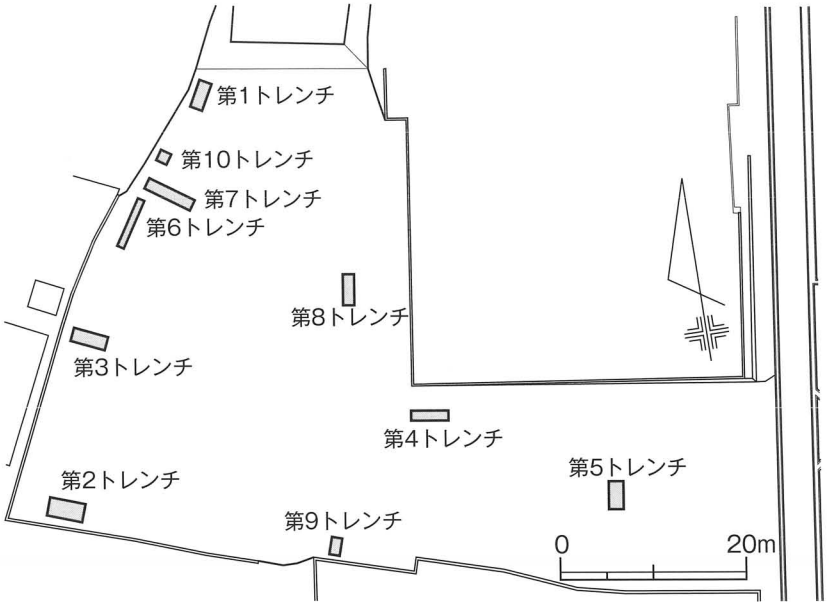
東の第５トレンチで地山は、粘質土であるが、西にいくにつれて砂質が増し、西端の第３トレンチでは砂礫が主体となる。又、地山の上の層は北側と南側は砂質土であるが、中央では第４トレンチは粘質土である。

検出遺構は第５トレンチで落ち込みを確認するが、詳細は不明である。

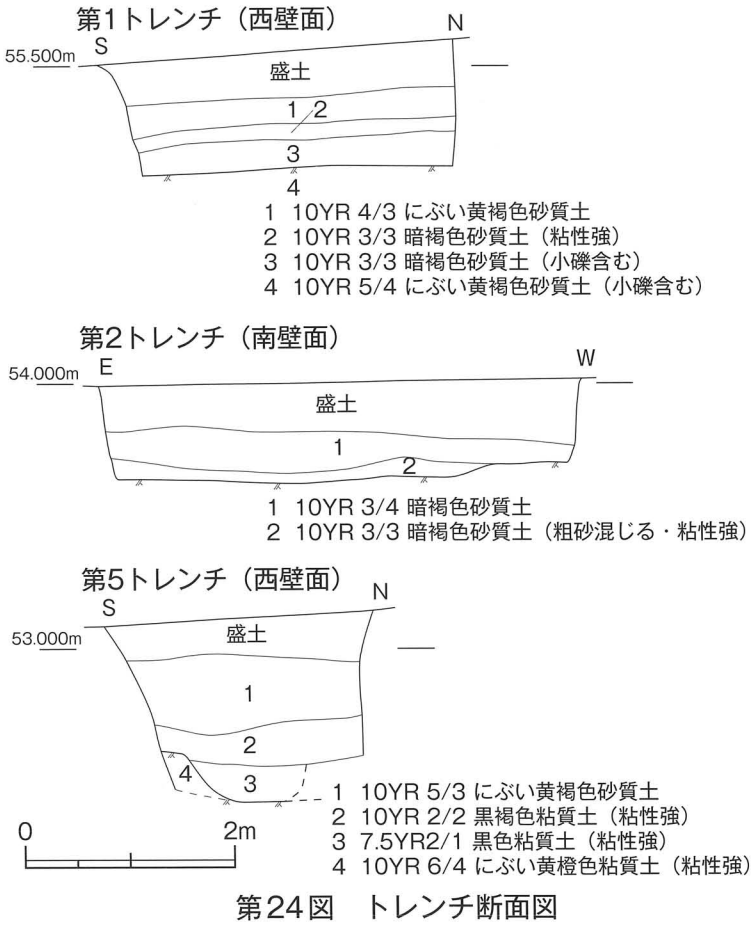
出土遺物は南西端の第２トレンチよりタタキ痕が残る弥生土器の底部、瓦器椀片が出土するが、他のトレンチでは確認できなかった。

今回の調査では池田城に関する遺構・遺物の確認には至らなかった。小規模なトレンチ調査であったためと考えられるが、周辺の調査でも同様に池田城に関する成果は少ない。そのため、調査地西に走る堀より東側は池田城の空閑地であった可能性がある。

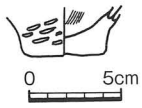
調査地南西端の第２トレンチでは弥生土器が確認されており、トレンチ周辺に弥生時代の遺構の存在が推測できるが、南に位置する池田城跡第31次調査では、弥生時代の出土遺物は少なく、西に広がっている可能性がある。



第23図　トレンチ位置図



第24図　トレンチ断面図



第25図
出土遺物実測図

池田城跡第61次調査

調査の概要

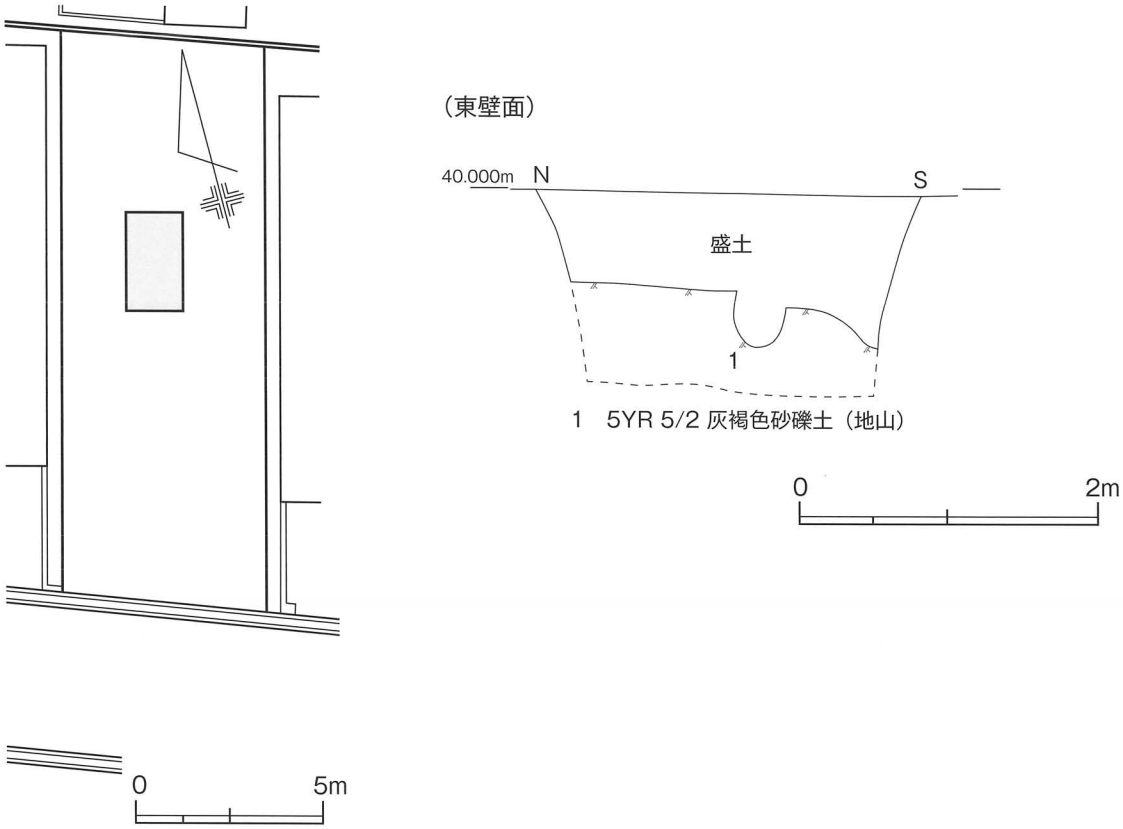
池田市上池田１丁目1638－14番において、個人住宅建築に先立ち調査を実施した。調査地は池田城跡の東端に位置する。調査面積は３㎡である。

基本層序は

第１層　表土・盛土

第２層　暗灰黄色の砂質土の地山である。

調査の結果、後世の削平のため、表土・盛土の下にすぐ地山があらわれる。遺構・出土遺物は確認できなかった。



第26図　トレンチ位置図・断面図

池田城跡第57－２次調査

調査の概要

平成19年６月20日から平成19年９月10日の間で実施した池田城跡第57次発掘調査で15世紀後半の堀を検出した。本調査はその範囲を確認するために実施したものである。池田城跡第57次発掘調査では、15世紀後半に掘削された堀（堀１）の他に、同時期の堀（堀３）、16世紀後半に

掘削された堀(堀2)、土師器皿を廃棄した土器溜りなどを検出し、池田城跡に関する貴重な成果があった。また、池田城跡第57次発掘調査地の西に隣接する池田城跡第53次発掘調査では堀３の延長と考えられる堀は検出したが、堀１の延長と考えられる堀は検出していない。そのため、池田城跡第57次発掘調査で検出した堀１の延長上にトレンチを設定し、調査を実施した。

調査面積は42㎡である。

第27図　トレンチ位置図

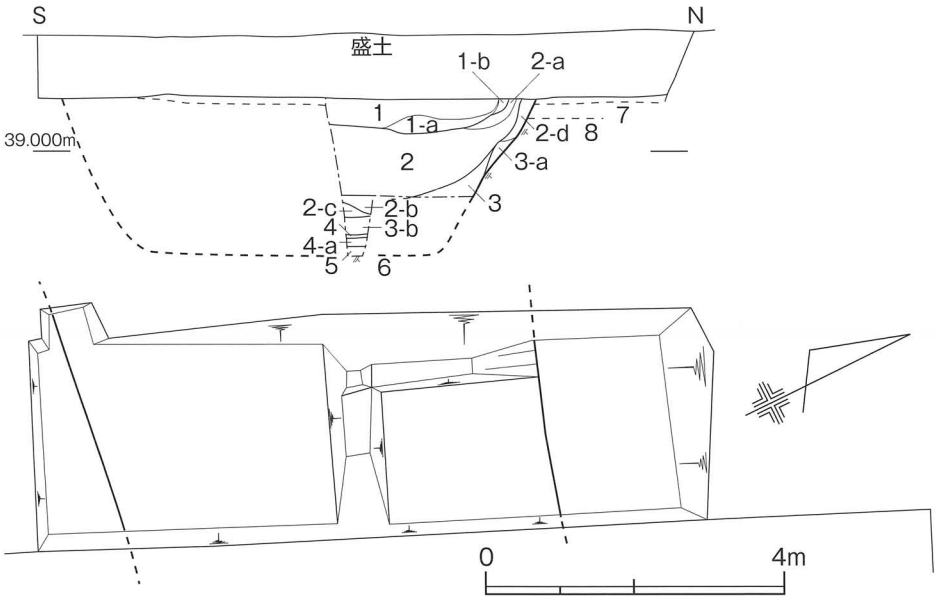
基本層序は

第１層　表土・盛土

第２層　黄橙色砂質土の地山

である。後世の削平のため、本調査では表土・盛土の下に地山があらわれる。

調査の結果、地山上から堀１の延長である幅5.5m、深さ2.1mの堀を確認した。堀は調査区外



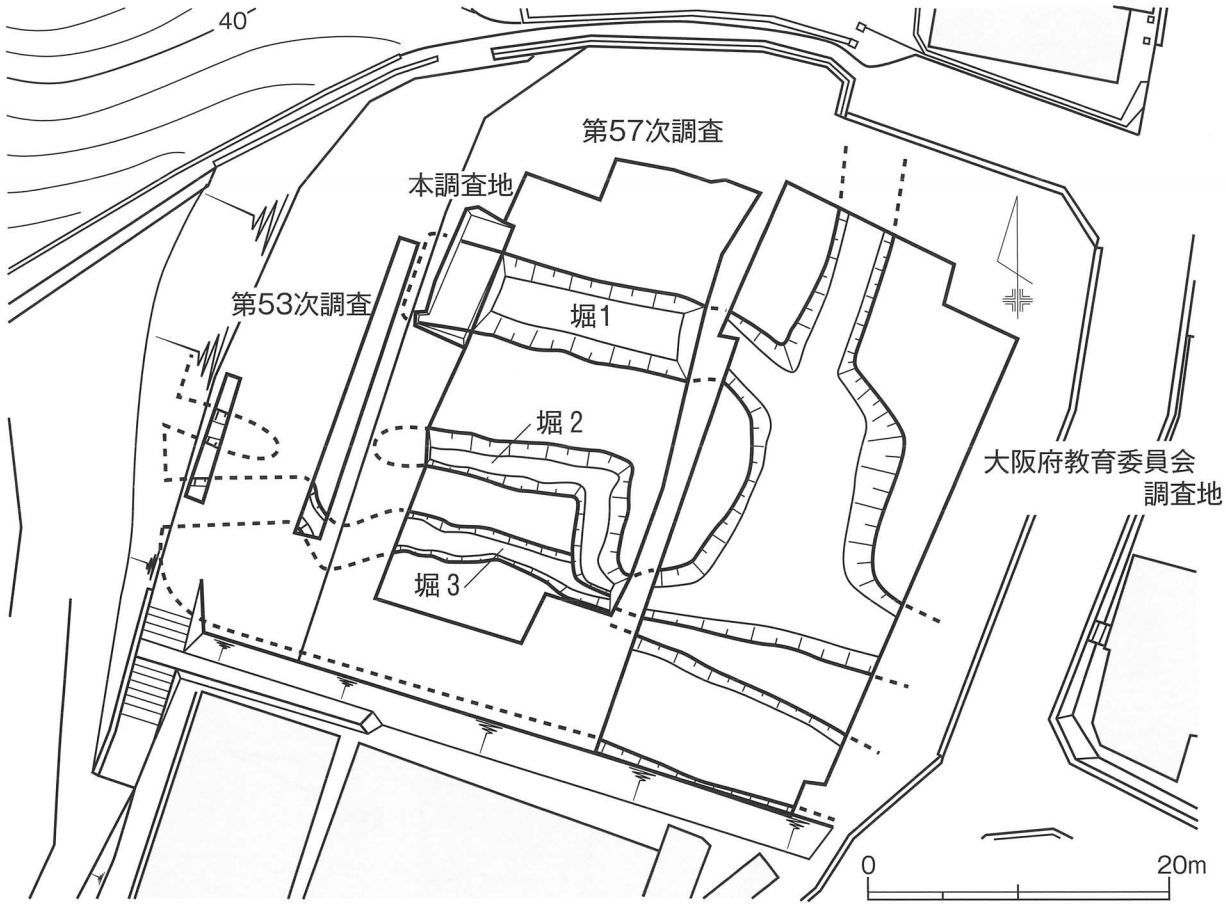
1　10YR 5/2 灰黄褐色砂質土
1-a　10YR 3/4 灰黄褐色砂質土（黄色粘土ブロック含む）
1-b　N 5/1 灰黄砂質土
2　10YR 8/8 黄橙色粘質土（中礫・黄色粘土ブロック含む）
2-a　10YR 8/8 黄橙色粘質土
2-b　10YR 6/4 にぶい黄橙色粘質土（砂多い）
2-c　10YR 6/4 にぶい黄橙色粘質土（粘性強）
2-d　10YR 3/4 にぶい黄褐色粘質土（灰混じる）
3　5B　6/1 青灰色砂質土
3-a　10YR 4/4 褐色粘質土（砂質に近い）
3-b　10YR 4/2 灰黄褐色粘質土（砂多い）
4　10Y　3/1 オリーブ黒色粘土
4-a　10YR 4/2 灰黄褐色粘質土（砂多い）
5　10Y　3/1 オリーブ黒色粘土
6　10YR 7/6 明黄褐色粘質土（粘土粘性強）
7　10YR 6/3 にぶい黄橙色砂質土
8　10YR 7/3 にぶい黄橙色砂質土

第28図　トレンチ平・断面図

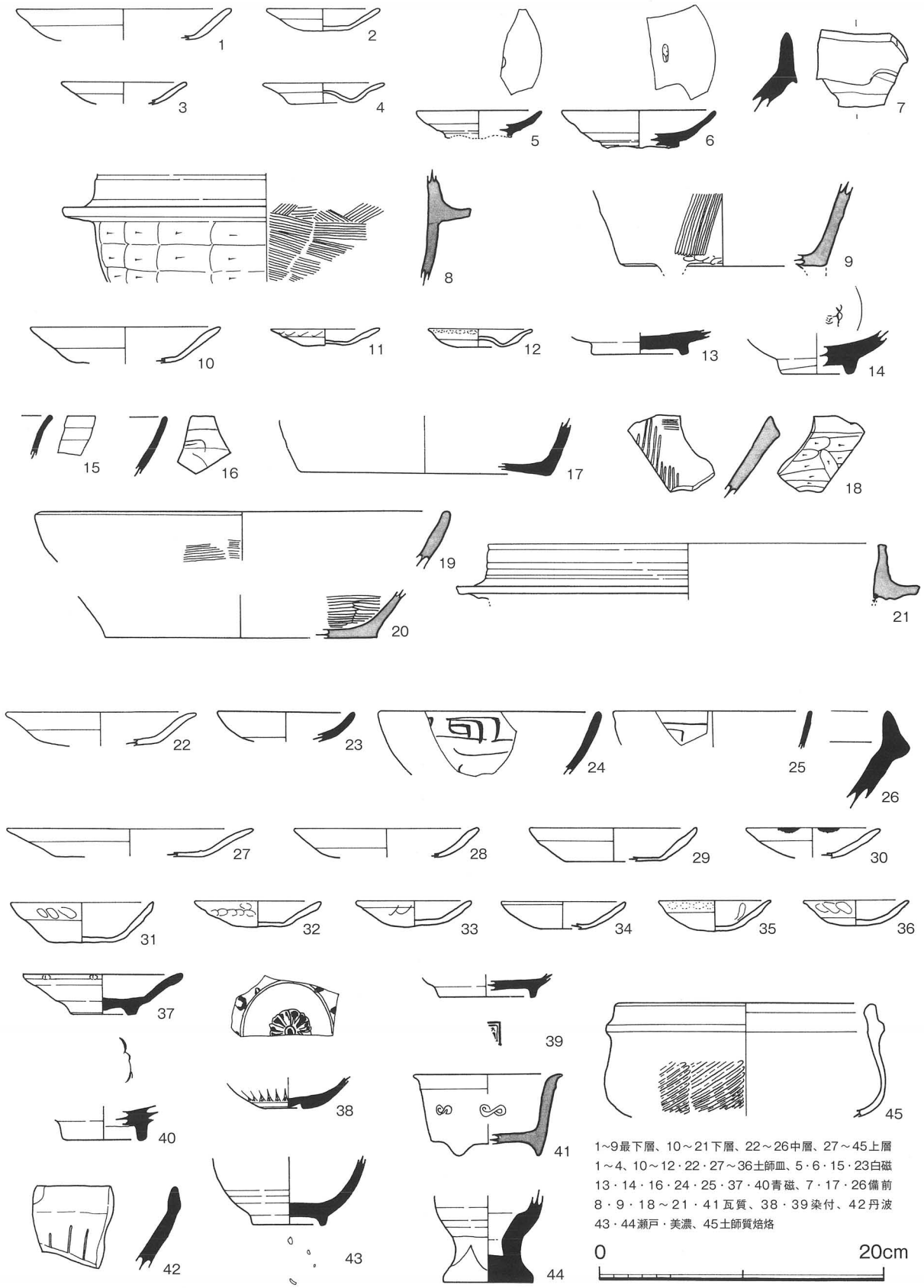
にも伸びている。

堀１の断面形は、底は平坦な逆台形で、テラス状遺構は持たない。土層の堆積を見ると堀底には泥や砂の堆積があり、雨水などが溜まっていたと考えられる(下層)。その上は、褐色系土が堆積する(中層)。さらにその上は、黄色系の土が堆積する(上層)。また、堀１からは土師器皿、瓦の小片が出土したが、小片のため実測はできなかった。

今回の調査は堀１の西端範囲の確認を主眼としたが、堀１はさらに調査地外西へ伸びていた。西に隣接する池田城跡第53次発掘調査では、堀1は確認されず、また、堀１の堀底は泥が堆積するため、調査地外で垂直な傾斜面をもって終わっていると考えられる。



第29図　周辺遺構図



第30図　第57次調査掘1出土遺物実測図

Ⅵ　宇保猪名津彦神社古墳第２次調査

はじめに

宇保猪名津彦神社古墳は池田市宇保町に位置する。古墳の中心と考えられる場所には猪名津彦神社が位置し、神社内には古墳の石室の一部であったと言われる巨石が散在している。また、慶長17年に本墳が発掘されたという記録がある。

平成２年に実施した第１次発掘調査では古墳の周溝と考えられる幅６ｍ、深さ１ｍの溝を検出している。

調査の概要

池田市宇保町360－１、２において建売住宅建築に先立ち試掘調査を実施した。調査地は第１次調査地の西に隣接する。そのため、調査は土層及び周溝の確認を主眼に、３本のトレンチを設定して実施した。

調査面積は20㎡である。

基本層序は、

第１層　表土・盛土

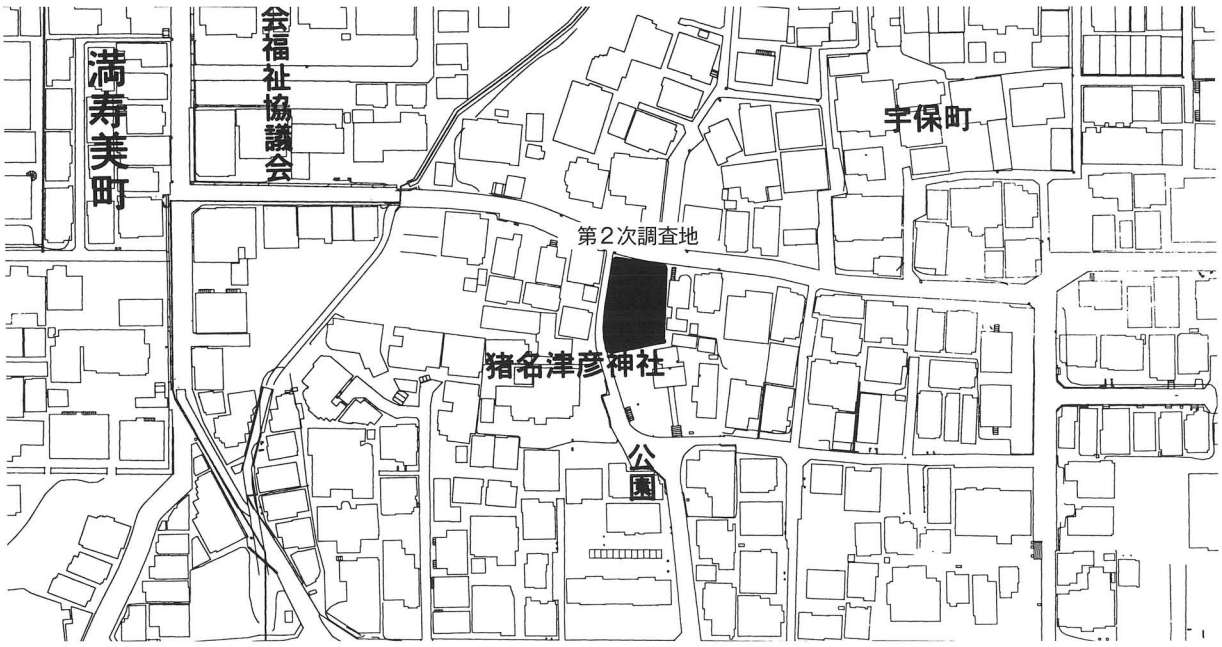
第２層　にぶい黄褐色砂質土

第３層　褐色粘質土

第４層　黄橙色粘土の地山

であるが、第１トレンチについては第２層が認められない。

第31図　猪名津彦神社内巨石



第32図　調査地位置図

第１トレンチ

調査地東側に設定したトレンチで、トレンチ中央より、幅3.9mの溝を検出した。建築建物の基礎の関係上、溝の完掘は行わなかったので、深さは不明である。

第２トレンチ

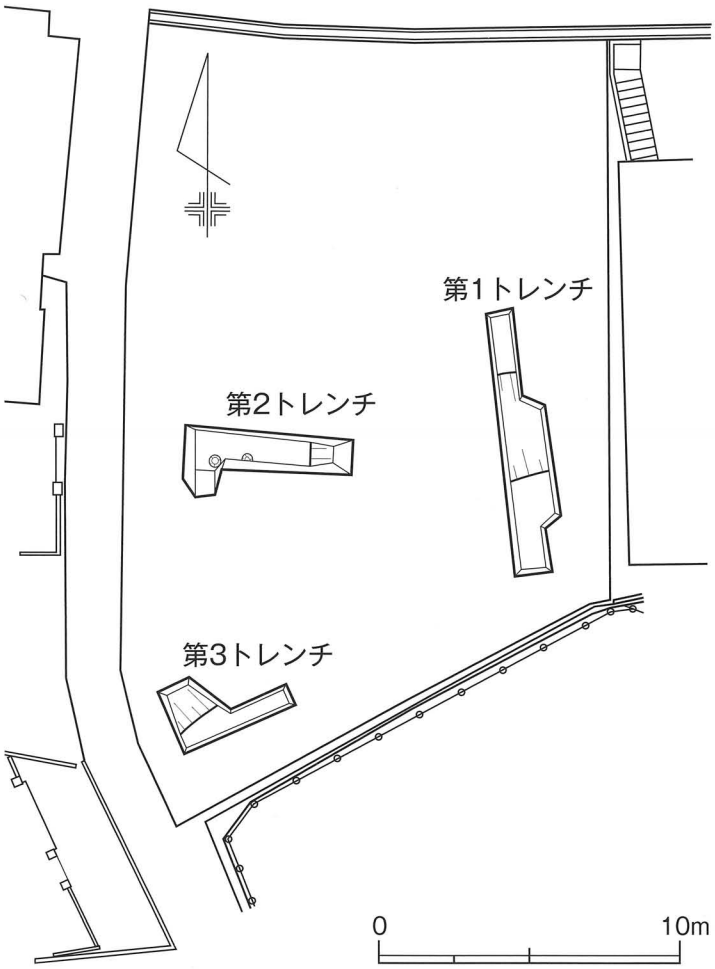
調査地西側に設定したトレンチで、トレンチ西端より、東に向かう落ち込みと柱穴を検出した。

第３トレンチ

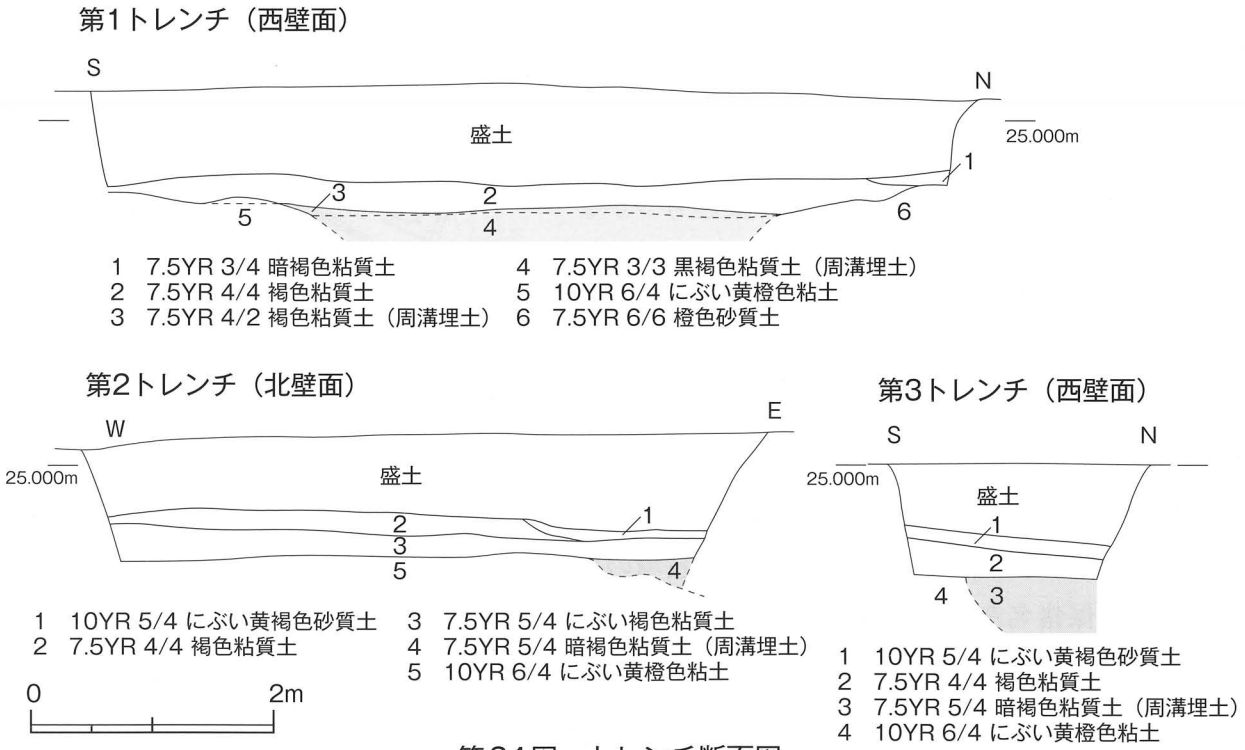
調査地南側に設定したトレンチで、トレンチ西端より、西に向かう落ち込みを検出した。

出土遺物

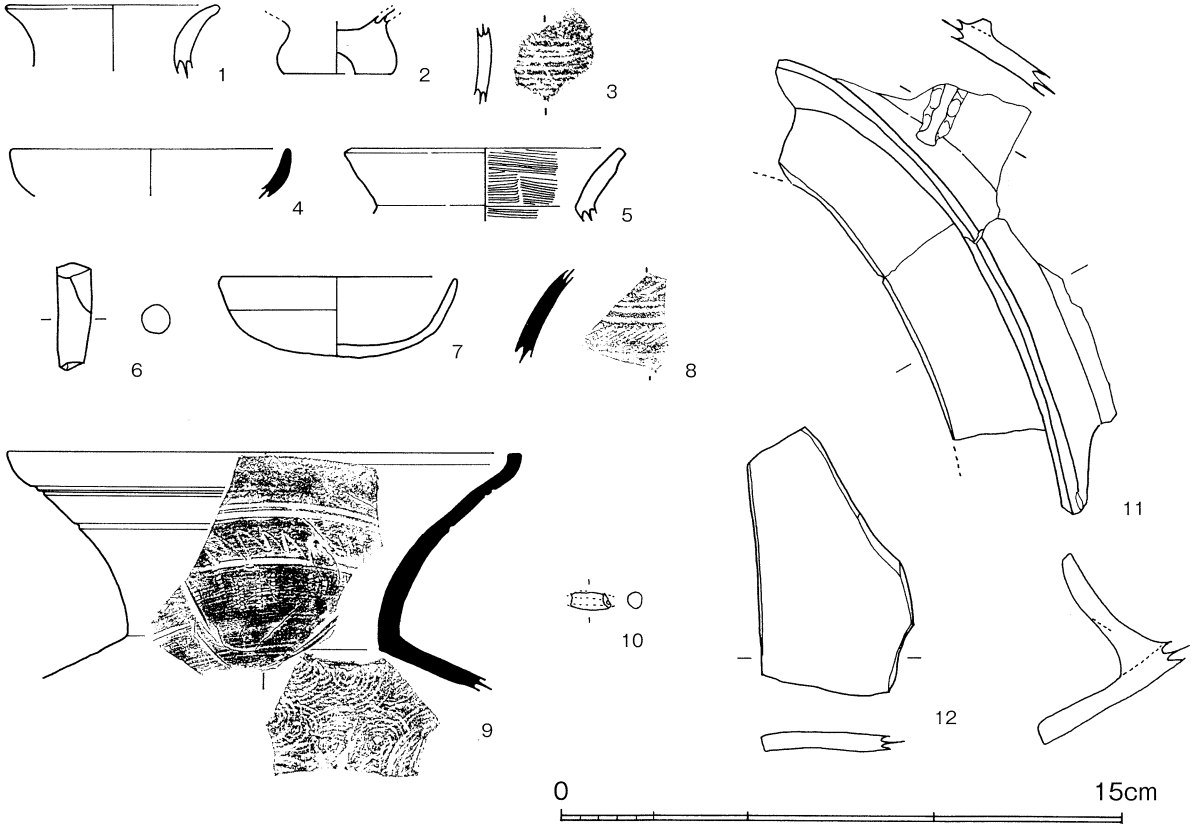
各トレンチの第３層（図38－１から６）、溝及び落ち込み（図38－７から12）より出土遺物があった。１から３は第２トレンチより出土した弥生土器で、３にはタタキが見られる。４から６は第１トレンチより出土した。４は



第33図　トレンチ位置図



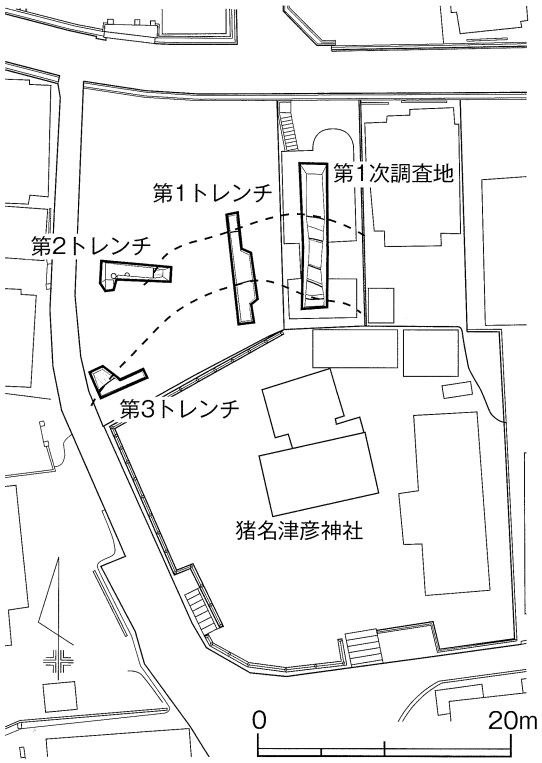
第34図　トレンチ断面図



第35図　出土遺物実測図

須恵器の杯、５は土師器甕の口縁部で、内面にハケ目が残り、口縁部外面はヨコナデが施されている。６は瓦質の三足器の脚である。７・８は第１トレンチより出土した。７は土師器の杯で、内面と外面口縁部はヨコナデ、体部外面は指押え痕が残る。８は須恵器で小壷の口縁部と考えられ、波状文、刺突文が残る。９は第２トレンチより出土した須恵器甕で、口縁部は内湾し、端部は細くならず、突起もつかない。１本の波状文、刺突文、沈線が施されているが、雑な感じである。体部内面は同心円のタタキが残り、体部外面調整は自然釉のため不明である。10から12は第１トレンチより出土した。10は土師質の土錘で、11・12は土師質の移動式竈である。

調査の結果、各トレンチともに溝あるいは落ち込みを検出した。その溝あるいは落ち込みを古墳の周溝と考え宇保猪名津彦神社古墳を円墳として復元すると直径約30m、周溝を含めると約40mとなる。しかし、復元形はいびつで、なお検討を要する。



第36図　古墳復元図

Ⅶ　宮の前遺跡

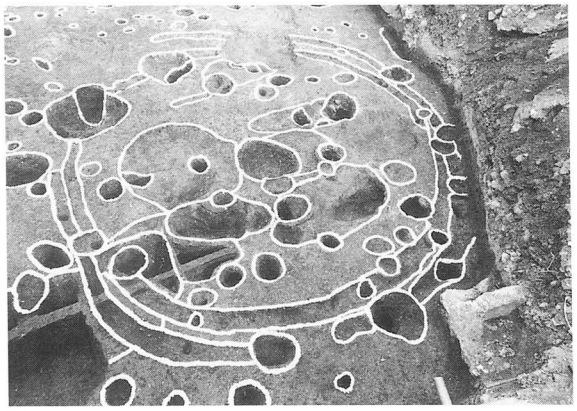
はじめに

宮の前遺跡は池田市石橋４丁目、住吉１・２丁目、豊中市蛍池北町に広がる旧石器時代から中世に至る複合遺跡で、待兼山の丘陵より西方へ発達した標高約30m前後の洪積台地に立地する。

宮の前遺跡は、昭和の初頭に地元の人々により石器や土器などが採取されており、遺跡の存在が知られていたが、本格的な調査は行われておらず、遺跡の性格等は不明であった。昭和43、44年の中国縦貫自動車道建設に伴い発掘調査が実施され、その結果、弥生時代中期の方形周溝墓、竪穴住居跡、土壙墓等の他、古墳時代の竪穴住居跡、古墳等が検出され、特に、当時、検出例が少なかった方形周溝墓が住居跡とともに多く検出されたことから、住居域と墓域が同時に把握できる貴重な例として注目されるようになった。他にも、奈良時代の掘立柱建物跡、井戸、平安時代の掘立柱建物跡等も確認され、弥生時代から中世に及ぶ複合遺跡として認識されるようになった。

その後、昭和61年度の大阪府教育委員会による調査、平成元年度の豊中市教育委員会よる調査で、国府型ナイフ形石器が出土し、当遺跡が旧石器時代までさかのぼることが判明し、遺跡の範囲は東西700m、南北900mと拡大している。

周辺の遺跡としては、南方に弥生時代中期の方形周溝墓等が検出された豊島南遺跡、古墳時代前期の竪穴住居跡が検出された住吉宮の前遺跡が位置し、東方に高地性集落と考えられる待兼山遺跡、



第37図　第11次調査竪穴住居跡

第38図　調査地位置図

須恵器を生産した桜井谷古窯跡群が広がる。

参考文献

『宮之前遺跡発掘調査概報』　宮之前遺跡調査会　1970年

『蛍池北遺跡(宮の前遺跡)』　豊中市教育委員会　1995年

『新修　池田市史』第１巻　池田市　1997年

『住吉宮の前遺跡』　(財)大阪府文化財調査研究センター　2001年

宮の前遺跡46次調査

調査の概要

池田市住吉２－82において個人住宅建築に先立ち調査を実施した。南北に細長い調査地のため北側に第１トレンチ、南側に第２トレンチを設定した。調査面積は10㎡である。

基本層序は

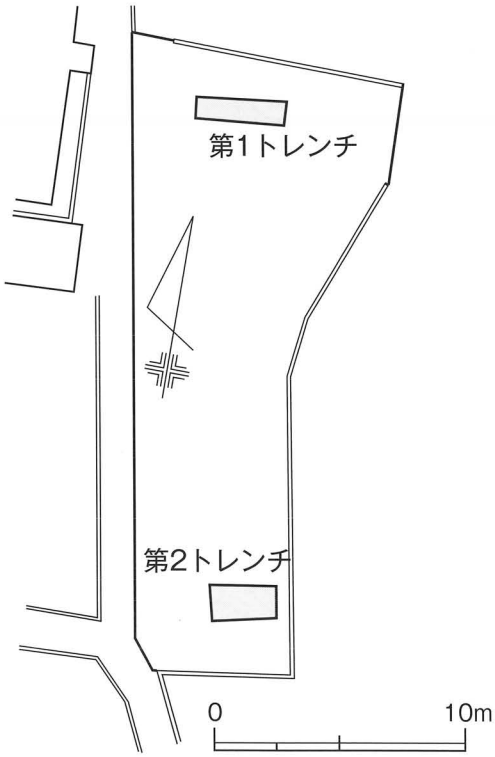
第１層　盛土

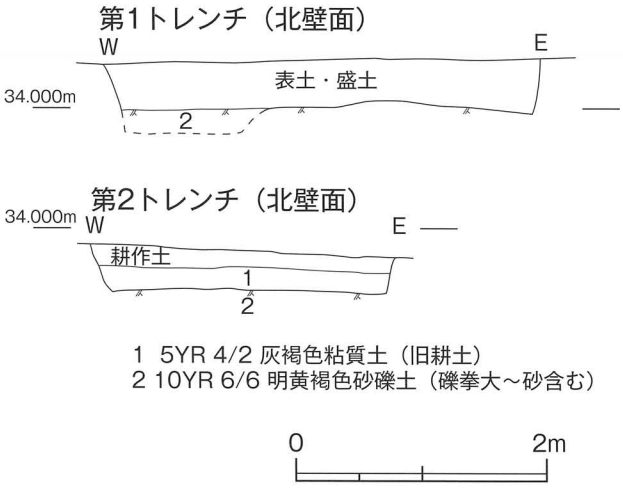
第２層　旧耕土

第３層　黄褐色砂礫層の地山である。なお、第１トレンチは盛土の下に地山があらわれる。

調査の結果、遺構は検出できなかったが、第２トレンチ第２層旧耕土内より弥生土器と考えられる土器片が出土したが、実測はできなかった。

宮の前遺跡の地山は黄色粘土層の場合が多く、その下に礫層がある。今回の調査の地山は礫層であった。そのことは、調査地は後世の削平が著しく、地山自体削平されていると考えられる。





第39図　トレンチ位置図・断面図

宮の前遺跡47次調査

調査の概要

池田市石橋４－91－１において共同住宅建築に先立ち試掘調査を実施した。調査面積は６㎡である。

基本層序は

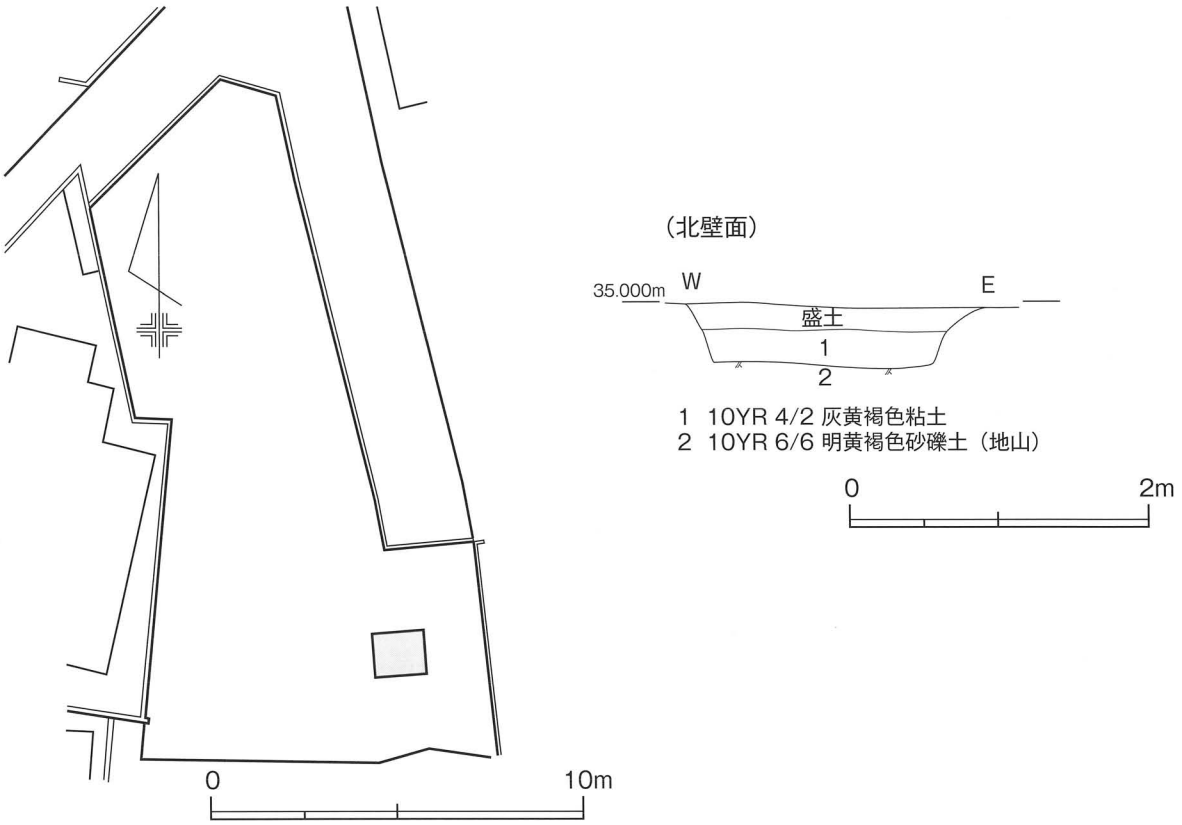
第１層　表土、盛土

第２層　旧耕土

第３層　黄褐色砂礫層の地山である。

調査の結果、遺構・出土遺物は確認できなかった。

宮の前遺跡46次調査と同様に地山が礫層のため、調査地は後世の削平が著しく、地山自体削平されていると考えられる。

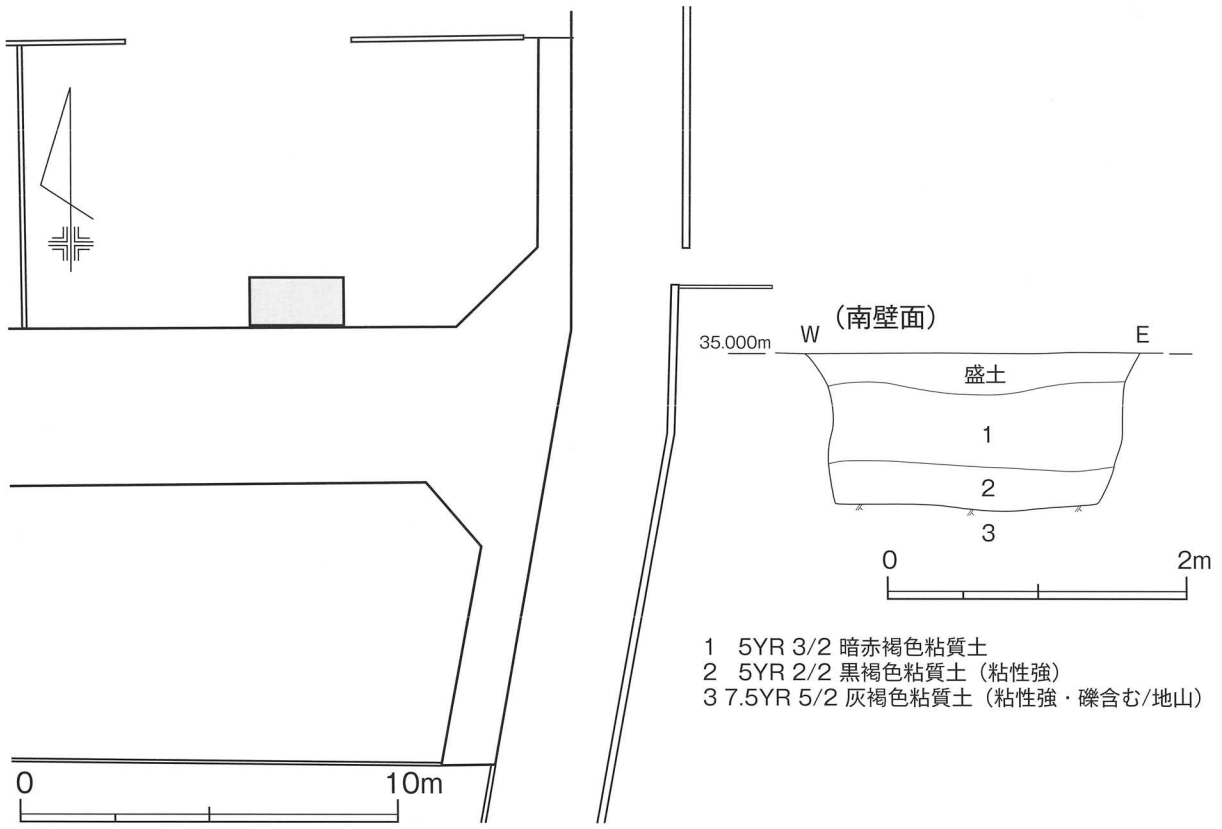


第40図　トレンチ位置図・断面図

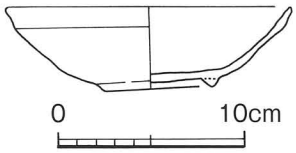
宮の前遺跡48次調査

調査の概要

池田市石橋４－104－２の一部において実施した建売住宅建築に伴う試掘調査である。調査面積は３㎡である。



第41図　トレンチ位置図・断面図



第42図
出土遺物実測図

基本層序は

第１層　表土、盛土

第２層　褐色粘質土

第３層　黒褐色粘質土(粘性大)

第４層　礫を含む粘質土の地山である。

調査の結果、遺構は検出されなかったが、第３層より土師器椀等が出土した。土師器椀は口径153mm、器高45mm。逆三角形の付け高台で、口縁部外面端部はヨコナデが残り、体部外面は指圧痕が僅かに見られる。内面の調整は分からない。胎土は粗く、直径４mmほどの小石も混じる。外内面とも灰白色及び橙色で、黒班も見られる。その他に、第３層より土師器皿等を検出したが、小破片のため実測できなかった。

参考文献

橋本　久和『中世土器研究序論』 1992年　真陽社

図版1

1）豊島南遺跡第８次調査トレンチ全景（東から）

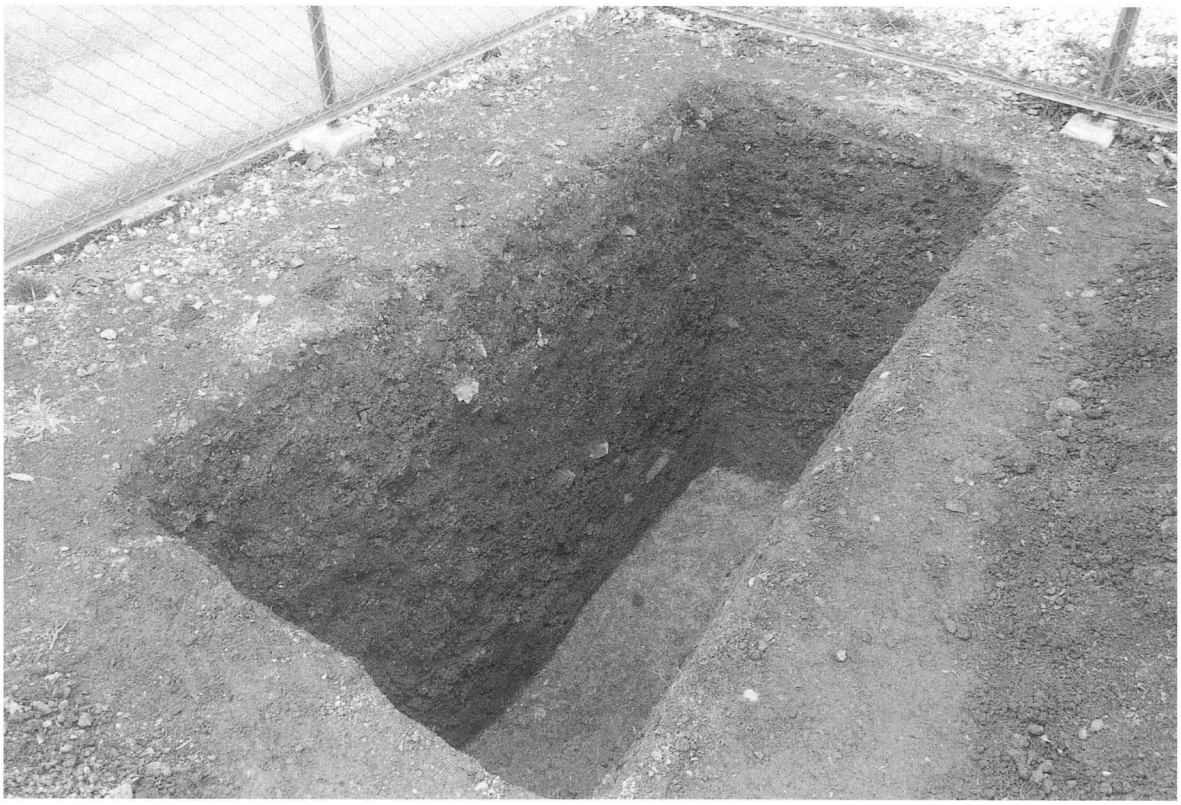
2）京中遺跡第１次調査トレンチ全景（東から）

図版2

1）城南3丁目試掘調査　第2トレンチ全景（北から）

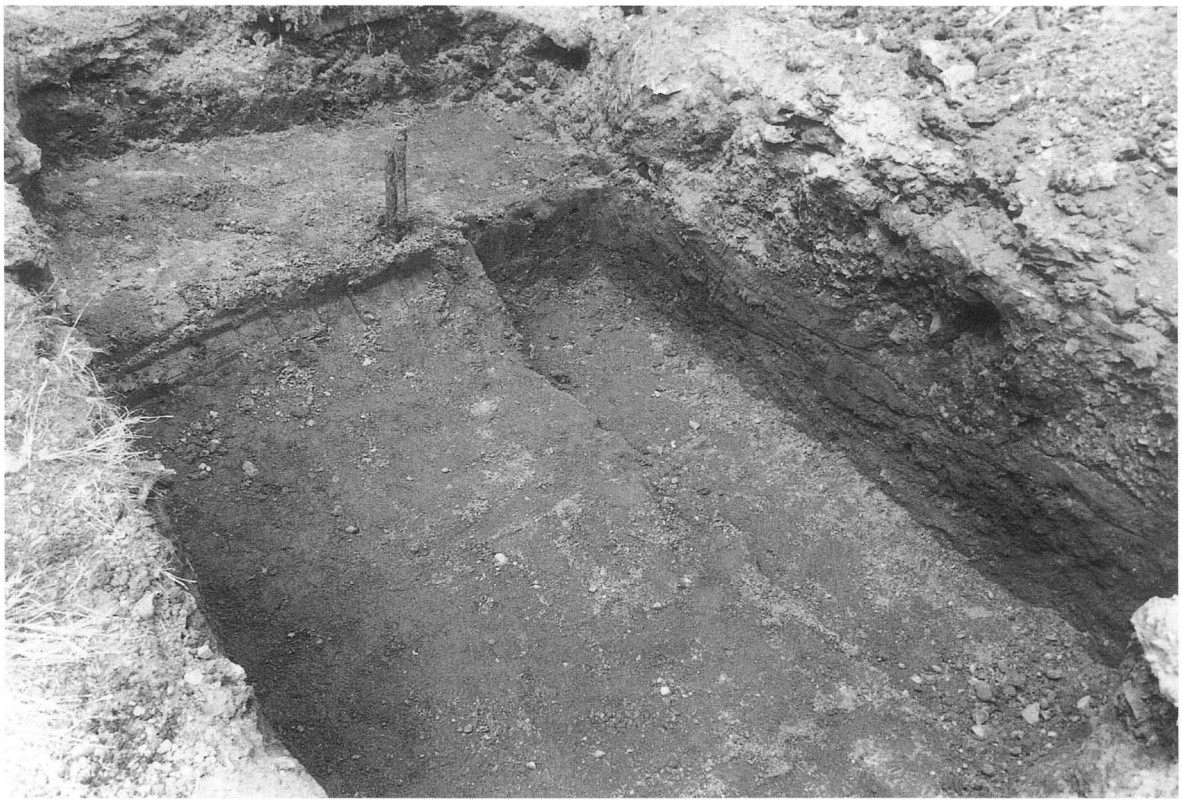
2）城南3丁目試掘調査　第3トレンチ全景（東から）

1）城南3丁目試掘調査　第4トレンチ（東から）



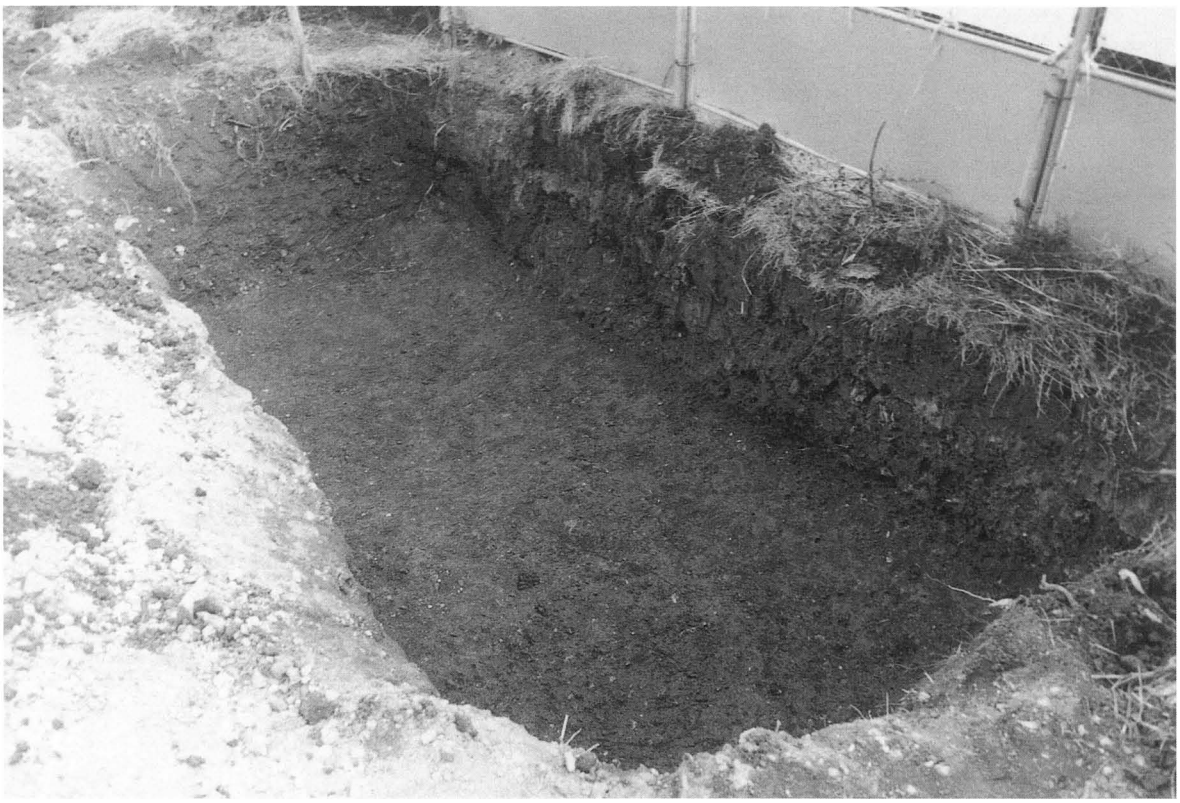
2）池田城跡第58次調査　トレンチ全景（西から）

図版4

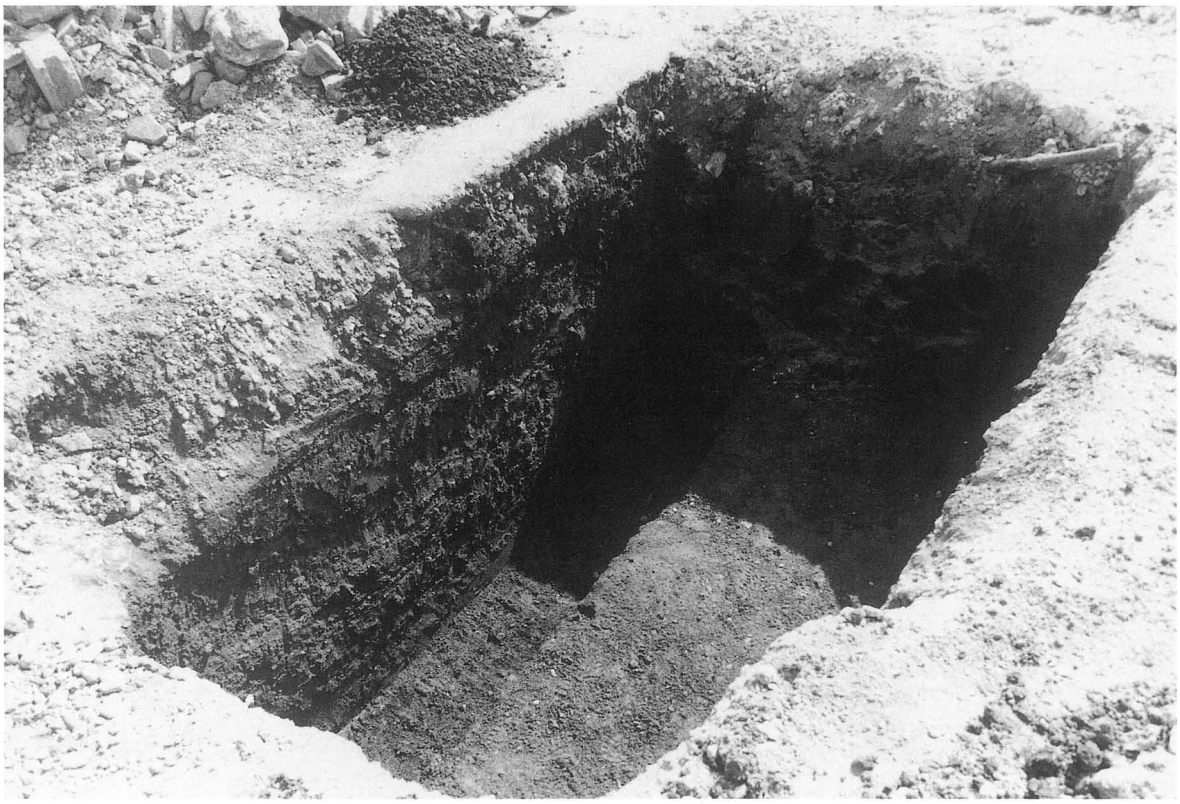


1）池田城跡第59次調査　第1トレンチ全景（東から）

2）池田城跡第60次調査　第1トレンチ全景（南から）



1）池田城跡第60次調査　第2トレンチ全景（西から）



2）池田城跡第60次調査　第5トレンチ全景（南から）

図版6

1）池田城跡第61次調査　トレンチ全景（北から）

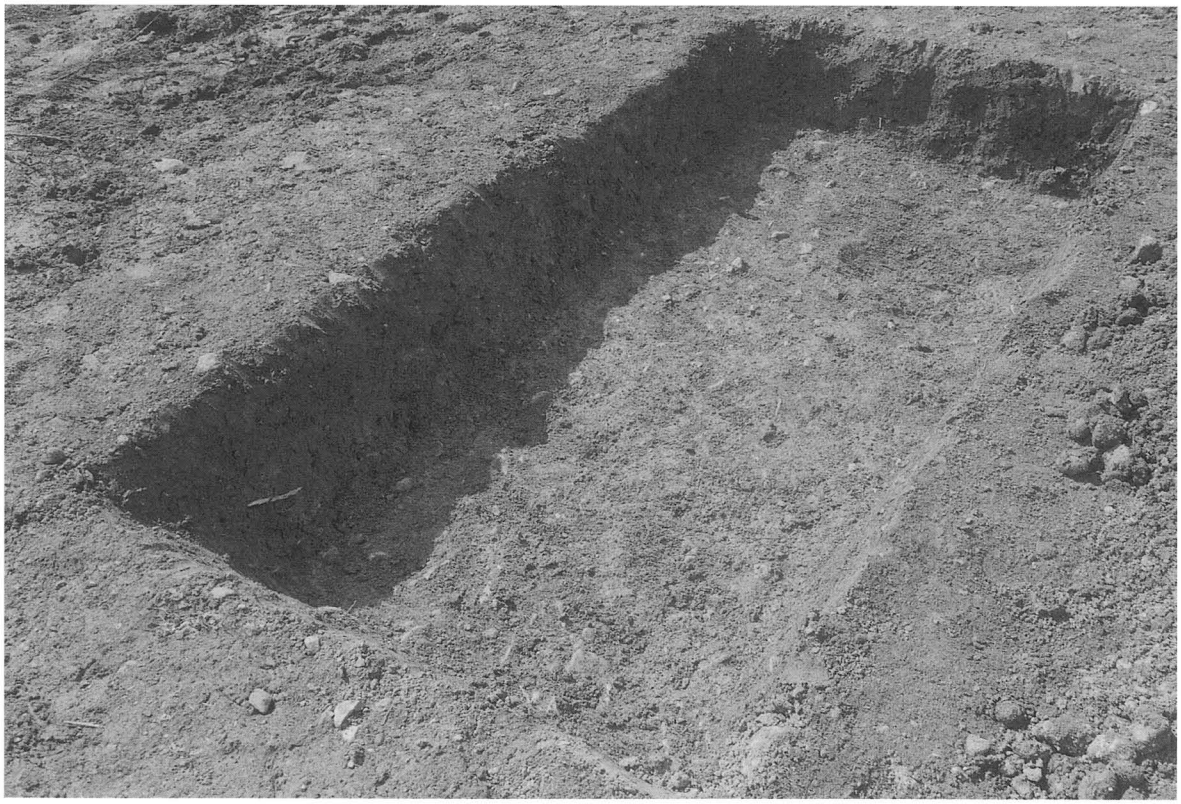
2）池田城跡第57－2次調査　トレンチ全景（南から）

1）宇保猪名津彦神社古墳第２次調査　第１トレンチ全景（北から）

2）宇保猪名津彦神社古墳第２次調査　第２トレンチ全景（西から）

図版8

1）宇保猪名津彦神社古墳第２次調査　第３トレンチ全景（西から）

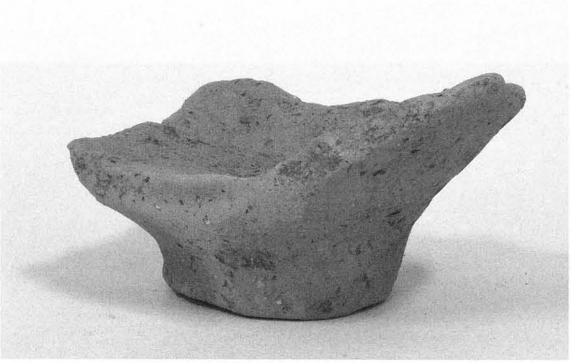


2）宮の前遺跡第46次調査　第２トレンチ全景（東から）

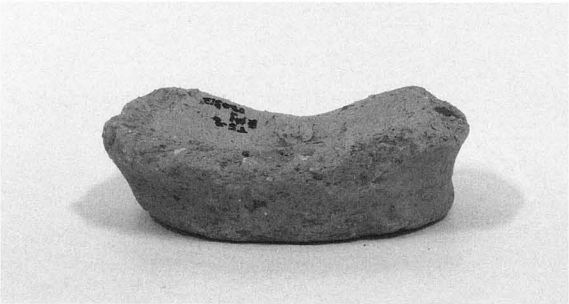
1）宮の前遺跡第47次調査　トレンチ全景（西から）

2）宮の前遺跡第48次調査　トレンチ全景（東から）

図版10

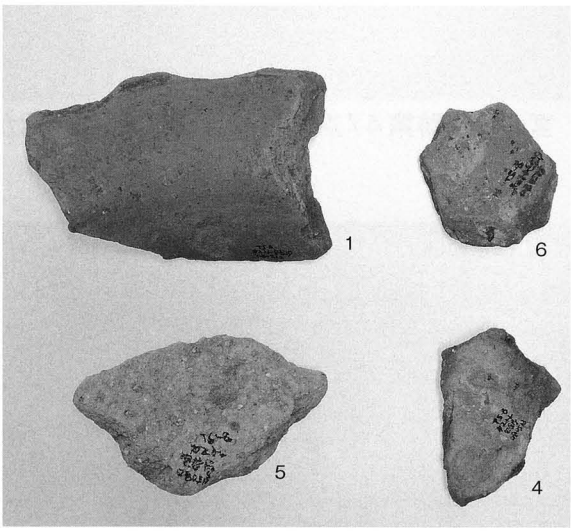


豊島南遺跡第８次調査　２

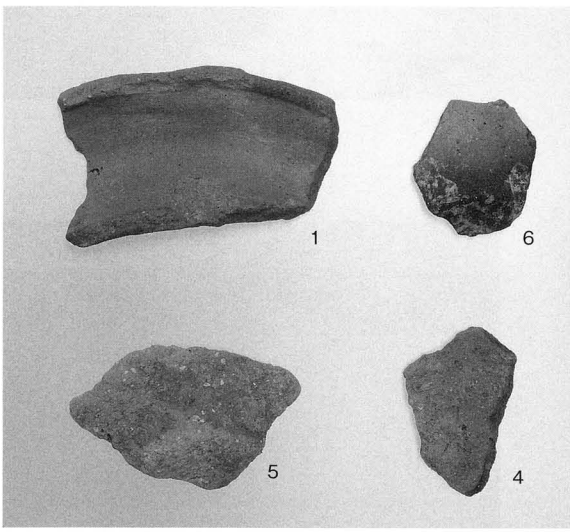


豊島南遺跡第８次調査　３

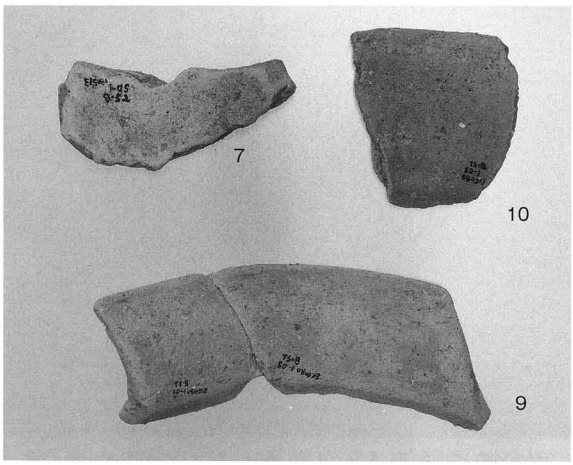
豊島南遺跡第８次調査　８



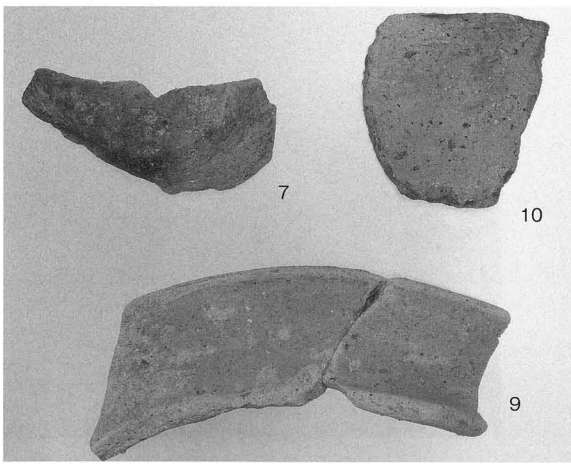
豊島南遺跡第８次調査　裏



豊島南遺跡第８次調査　表



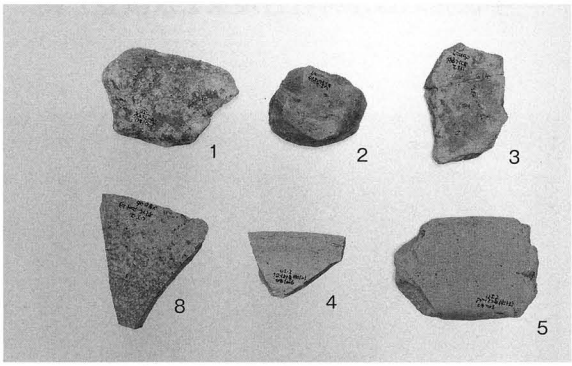
豊島南遺跡第８次調査　裏



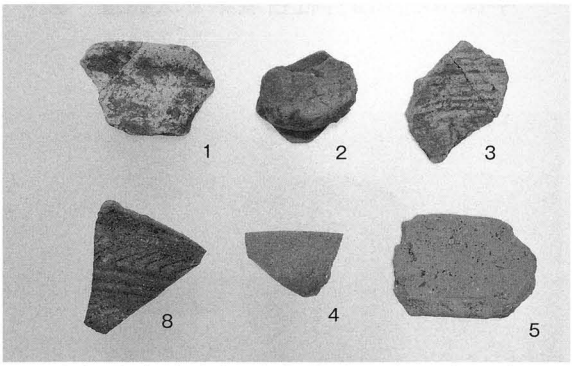
豊島南遺跡第８次調査　表

池田城跡第60次調査

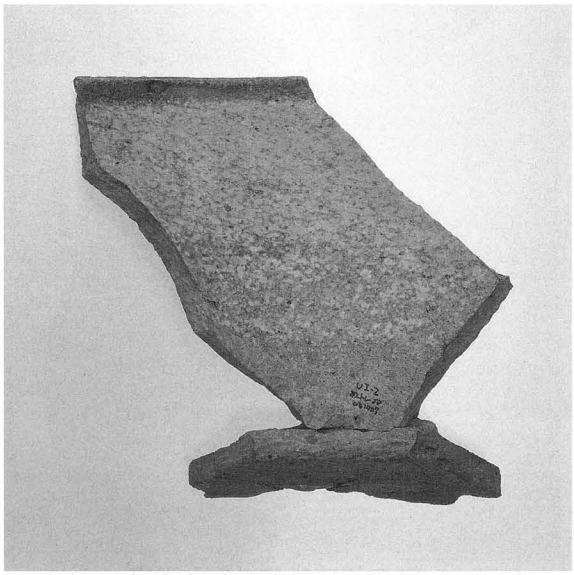
宇保猪名津彦神社古墳第２次調査　７



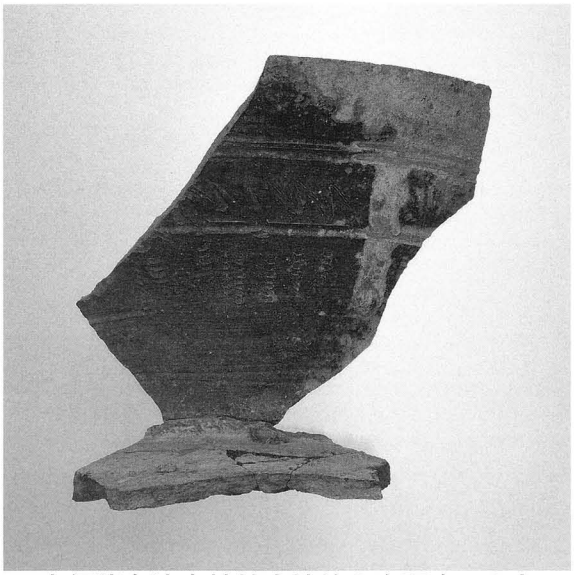
宇保猪名津彦神社古墳第２次調査　裏



宇保猪名津彦神社古墳第２次調査　表

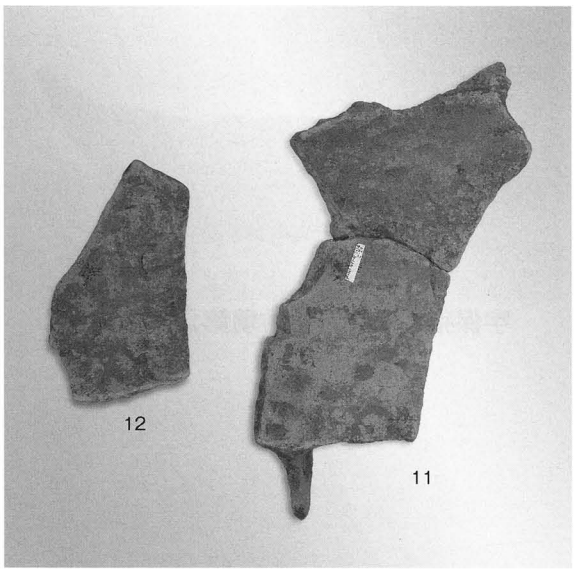


宇保猪名津彦神社古墳第２次調査　９裏

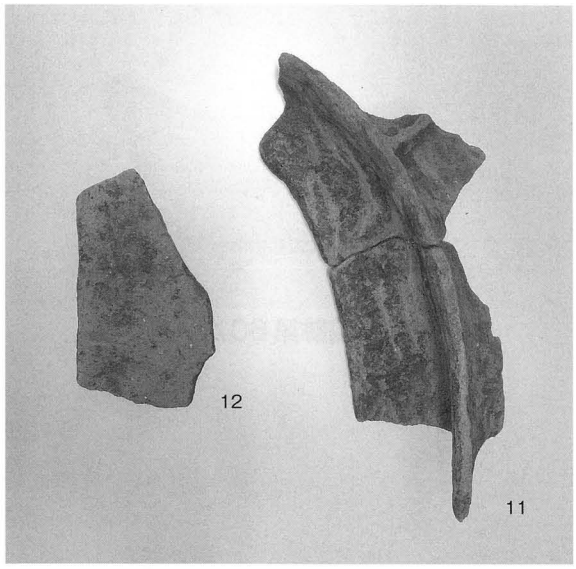


宇保猪名津彦神社古墳第２次調査　９表

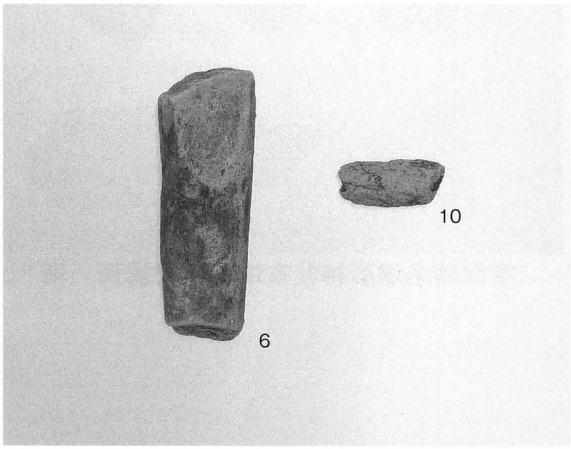
図版12



宇保猪名津彦神社古墳第２次調査　裏



宇保猪名津彦神社古墳第２次調査　表



宇保猪名津彦神社古墳第２次調査

宮の前遺跡第48次調査

報告書抄録

ふりがな	いけだしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいほう
書名	池田市埋蔵文化財発掘調査概報
副書名	池田市文化財調査報告第35集
巻次	
シリーズ名	池田市文化財調査報告
シリーズ番号	35
編著者名	中西正和
編集機関	池田市教育委員会
所在地	〒563-8666 大阪府池田市城南1丁目1番1号　TEL. 072-752-1111
発行年月日	2009年3月31日

所収遺跡（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
豊島南遺跡第8次調査（てしまみなみいせき）	豊島南2-241-6他（とよしまみなみ）	272043	—	34度47分55秒	135度26分01秒	080513	12㎡	個人住宅建設のための試掘調査
京中遺跡第2次調査（きょうなかいせき）	畑3-793-30（はた）	272043	—	34度49分42秒	135度26分46秒	080515	3㎡	個人住宅建設のための試掘調査
城南3丁目(村重塔)試掘調査（じょうなん・むらしげとう）	城南2-51（じょうなん）	272043	—	34度49分11秒	135度25分43秒	080707～080708	20㎡	遺構確認調査
池田城跡第58次調査（いけだじょうせき）	建石町1998-3（たていしちょう）	272043	—	34度49分29秒	135度25分50秒	080207	5㎡	共同住宅建設のための試掘調査
池田城跡第59次調査（いけだじょうせき）	上池田1-3354（うえいけだ）	272043	—	34度49分26秒	135度25分52秒	080917～080918	30㎡	個人住宅建設のための試掘調査
池田城跡第60次調査（いけだじょうせき）	建石町1936-2 他（たていしちょう）	272043	—	34度49分35秒	135度25分50秒	081020～081022	30㎡	共同住宅建設のための試掘調査
池田城跡第61次調査（いけだじょうせき）	上池田1-1638-14（うえいけだ）	272043	—	34度49分28秒	135度25分52秒	081110	3㎡	個人住宅建設のための試掘調査
池田城跡第57-2次調査（いけだじょうせき）	栄本町2031-5, 7（さかえほんまち）	272043	—	34度49分32秒	135度25分42秒	080122～080131	42㎡	遺構確認調査
宇保猪名津彦神社古墳第2次調査（うほいなつひこじんじゃこふん）	宇保町360-1, 2（うほちょう）	272043	—	34度49分01秒	135度25分45秒	081006～081008	20㎡	建売住宅建設のための試掘調査
宮の前遺跡第46次調査（みやまえいせき）	住吉2-82（すみよし）	272043	—	34度48分04秒	135度26分33秒	080214	10㎡	個人住宅建設のための試掘調査
宮の前遺跡第47次調査（みやまえいせき）	石橋4-91-1他（いしばし）	272043	—	34度48分07秒	135度26分37秒	081008	6㎡	共同住宅建設のための試掘調査
宮の前遺跡第48次調査（みやまえいせき）	石橋4-104-2の一部（いしばし）	272043	—	34度48分10秒	135度26分38秒	081017	3㎡	建売住宅建設のための試掘調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
豊島南遺跡第8次調査（てしまみなみいせき）	古墳・集落跡	縄文から中世	柱穴・溝	弥生土器・須恵器	
京中遺跡第2次調査（きょうなかいせき）	散布地	縄文・弥生	—	—	
城南3丁目(村重塔)試掘調査（じょうなん・むらしげとう）	経塚？	中世？	—	—	
池田城跡第58次調査（いけだじょうせき）	城館跡・集落跡	縄文から中世	—	—	
池田城跡第59次調査（いけだじょうせき）	城館跡・集落跡	縄文から中世	—	—	
池田城跡第60次調査（いけだじょうせき）	城館跡・集落跡	縄文から中世	—	弥生土器・瓦器椀	
池田城跡第61次調査（いけだじょうせき）	城館跡・集落跡	縄文から中世	—	—	
池田城跡第57-2次調査（いけだじょうせき）	城館跡・集落跡	縄文から中世	堀	土師器皿・瓦	15世紀後半の堀
宇保猪名津彦神社古墳第2次調査（うほいなつひこじんじゃこふん）	古墳	弥生から中世	柱穴・溝・落ち込み	弥生土器・須恵器・移動式竈・土錘	古墳の周溝
宮の前遺跡第46次調査（みやまえいせき）	古墳・集落跡	旧石器から中世	—	弥生土器	
宮の前遺跡第47次調査（みやまえいせき）	古墳・集落跡	旧石器から中世	—	—	
宮の前遺跡第48次調査（みやまえいせき）	古墳・集落跡	旧石器から中世	包含層	土師器椀・皿	

要約	池田城跡（いけだじょうせき）第57－2次調査では15世紀後半の堀の延長を検出する。 宇保猪名津彦神社古墳第2次調査（うほいなつひこじんじゃこふん）では古墳の周溝と考えられる溝・落ち込みを検出する。

池田市文化財調査報告書第35集

池田市埋蔵文化財発掘調査概報

2008年度

2009年3月

発行　池田市教育委員会

池田市城南1丁目1番1号

編集　社会教育課

印刷　セイコープロセス株式会社